

777R-65

農 務
商 工

福 岡 縣 令 達 類 纂

丁 卷

CZ
1113
114-01

特
812

福岡縣令達類纂丁卷目次

第五編 內務部第四課主管ノ部

農務

農事水產試驗場及測候所

測候所職務心得并所務取扱手續

暴風警戒通知ノ所

勸業試驗場長測候所長等務受渡心得

暴風雨等異常觀測ノ實況報告

農事試驗場々務規程

一等測候所ノ觀測

農事試驗場見習生規程

水產試驗場々務規程

水產試驗場漁具貸與規程

講習所及講和會

二十二年六月十九日
 總達第六九號
 二十二年十二月廿五日
 總達第一五四號
 二十六年四月廿六日
 總達第四五號
 二十七年八月十四日
 總達第八八號
 二十八年三月廿二日
 總達第三三號
 二十九年四月十四日
 總達第二四號
 二十九年七月十日
 告示第一一三號
 三十一年四月九日
 總達第一一九號
 三十一年十一月三十日
 告示第二六七號

一 二 三 四 五 六 八 〇



養蚕講習所規程	二十九
農事講習所規則	一八
害虫驅除講習會規程	二二
林業講習會規程	二二
水産講習會規程	二三
農 會	
郡農會ヨリ差出ス文書ノ經由	二四
農會令施行心得	二四
共進會品評會	
博覽會共進會等開設ニ關スル報告	二五
共進會品評會褒賞費補助規程	二八
共進會品評會褒賞狀書式	二九
森 林	
森林法施行手續	三〇

造林地免租出願ニ對スル實地調査	四七
造林獎勵補助費下附規則	四九
森林開墾出願ニ對スル調査	五三
漁 業	
捕魚採藻ノ爲メ海面所用出願	無
潜水器械取締規則	五三
千年川水産蕃殖保護方法	五五
漁業組合準則	五七
板屋貝漁業及其製造ニ關スル組合設置	六一
漁場ニ關スル水面埋立出願ニ對スル取扱方	六一
矢部川星野川水産蕃殖保護方法	六一
邊春川飯江川水産蕃殖保護方法	六一
長崎縣漁場採藻場取締規則	六四
三潞郡漁業組合規約摘要	六五
	六九

捕鯨業出願手續

筑豊漁業組合規約摘要

佐賀縣ニ於ケル季節禁漁

眞珠貝生育保護

漁業取締規則

矢部川星野川漁業組合規約中制限禁止

漁業獎勵補助費下付規程

有明海漁業組合規約中制限禁止

室見川漁業組合規約摘要

大分縣漁業取締規則摘要

田ノ浦漁業組合規約摘要

豊海漁業組合規約摘要

氣象

福岡市博多下須町海岸ニ於ケル暴風警報信號標

二十七 六月六日 七〇

二十七 七月五日 七〇

二十八 八月十九日 七二

二十八 八月三十一日 七三

二十九 三月七日 七三

二十九 六月四日 七六

三十年 三月五日 七六

三十一年 一月廿九日 七八

三十一年 九月六日 八一

三十二年 八月四日 八一

三十一年 八月三十日 八一

三十一年 七月六日 八三

三十一年 九月一日 八四

三十八 八月廿日 八九

測候所ノ天氣豫報揭示場

測候所ニ於ケル天氣豫報信號

氣象報告規程

蚕種検査及蚕糸業

蚕種検査法施行手續

蚕種検査事務取扱心得

自家用蚕種検査手續

蚕業補助費下付規程

害虫驅除豫防

害蚕驅除豫防規則

畜産及獸疫

種牡馬検査法施行手續

種牡牛取締規則

獸疫發生報告

畜産補助費下付規程

二十九 四月十四日 八九

三十年 五月廿八日 九〇

三十三年 三月十四日 九一

三十一年 三月三十一日 九四

三十一年 四月四日 九四

三十二年 三月三十一日 九九

三十二年 四月廿六日 九九

三十三年 九月六日 一〇二

三十三年 七月五日 一〇三

三十一年 三月廿二日 一〇五

三十一年 五月廿四日 一一〇

三十一年 十二月七日 一一〇

三十一年 六月三日 一一五

三十二年 九月十二日 一二八

三十三年 八月十四日 一二九

獸醫蹄鉄工

獸醫組合設置手續

獸醫心得

蹄鉄工仮免狀下附願書式

蹄鉄工仮免狀出願取扱手續

獸醫仮免狀下附願書式

獸醫仮免狀出願取扱手續

北海道移住民

北海道移住民汽車汽船賃割引券取扱方

北海道移住民ニ對シ北海道内ニ於ケル汽船賃割引券下付

農商工通信報告

西洋形船員取調報告

農工商業報告例

私立西洋形船造船所及造船員數取調報告

二十七年七月廿六日 縣令第一二〇號 一三三

二十七年七月廿六日 縣令第一二一號 一三三

二十七年八月三十日 告示第六四號 一三〇

二十七年九月一日 訓第一〇五三號 一三一

二十七年九月九日 告示第六九號 一三一

二十七年九月九日 訓第一〇七六號 一三四

三十一年七月十二日 訓第一七七號 一三五

三十一年五月十日 告示第九二號 一三七

二十二年六月七日 訓第五四二號 一三七

二十四年九月廿二日 縣達第三六號 一三九

二十七年一月廿二日 縣達第三三號 一四二

玄米直取引相場取調報告

各組合ニ於ケル違約者并組合員數等取調報告

農工商統計材料調査規程

他人ノ掘採セル鑛物ヲ買入レ製煉スル者ノ工程報告

會計檢査院事務章程ニ依リ諸物價平均相場報告

雜則

農、蚕、茶、水産業組合經費豫算認可願差出方

商工

銀行

銀行條例施行細則ニ據リ願届等ニ關スル規程

銀行又ハ貯蓄銀行出張所等設置ノ際届出方

銀行事業ヲ營ム會社登記ヲ受ケタルキノ届出方

株式會社事務所取扱方ニ付注意

普通銀行ニシテ貯蓄銀行事業兼營ノ場合取扱方ニ付注意

二十七年五月十一日 縣達第一五號 一四三

二十九年四月十五日 訓第二二六號 一四四

三十二年九月廿九日 訓令第一七號 一四四

三十三年三月九日 訓令第一五號 二四四

三十三年八月十四日 訓令第九五號 二四五

二十八年十二月十七日 訓第四四七號 二四七

二十六年七月四日 縣令第三一號 二四八

二十六年十一月廿日 訓第五二三號 二四八

二十七年十月三十一日 訓第三九二號 二四九

三十年四月七日 訓第二四七號 二四九

三十年七月十二日 訓第四八五號 二五〇

貯蓄銀行ト貯蓄銀行兼營トノ區別ニ付注意

組合

石炭坑業人組合準則

同業組合準則

組合規約認可後ノ届出

同業組合準則ニ據ラザル組合設置

重要物産同業組合取締規則

同業組合經費豫算報告ニ關スル書式

度量衡

度量衡取締規則程

度量衡取締規則施行規程

郵便

郵便受取人所在不明ニ關スル証明

三等郵便局長採用ニ關スル處辨方

三十一年九月三十日 二五〇
訓 第六二七號

十八年四月九日 二五一
第三四號布達

十八年五月八日 二五三
第四一號布達

十八年十月十四日 二五四
甲第一一五號

十八年十二月五日 二五四
第四八〇號訓示

二十五年八月廿二日 二五五
縣令第六二號

二十八年五月廿四日 二五五
訓 第一九五號

三十一年六月廿八日 二六三
縣令第三五號

三十一年六月廿八日 二七九
訓 第三七六號

二十年一月十九日 二八四
訓 第三四號

二十一年五月九日 二八四
訓 第三四一號

二十一年一月十九日 二八四
訓 第三四一號

二十一年一月十九日 二八四
訓 第三四一號

郵便受取人等採用ニ關スル處辨方

書狀送達ノ儀ニ付注意

全 件

全 件

電信電話

私設電信電話線新設等工事着手及竣工後届出方

船舶

登録噸數百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若クハ買入タル者ノ臨檢

戰時運輸ニ必要ノ爲漁船調査

船鑑札受有書換等出願手續

船鑑札規則施行手續

長崎港改良工事施行ニ付船舶碇泊禁止

西洋形船ト日本形船トノ區別

台灣ニ船籍ヲ定ムルモノ、願書進達方

二十一年六月六日 二八五
訓 第一四四號

二十四年六月廿六日 二八五
廳 達 第八三號

二十四年六月廿六日 二八五
訓 第四一二號

二十五年九月十七日 二八六
訓 第四五九號

二十八年十月二日 二八六
縣 令 第六〇號

二十九年六月五日 二八八
訓 第三五二號

二十九年七月廿五日 二八八
訓 第四五九號

二十九年十二月廿四日 二八八
縣 令 第九〇號

二十九年十二月廿四日 二八九
訓 第七七二號

三十年十月九日 二九二
告 示 第二〇六號

三十年十月廿三日 二九三
訓 第六七八號

三十一年十一月十八日 二九四
訓 第七〇九號

魚市場

魚市場規則

魚市場成績表書式

鑛業

鑛業出願書ニ關シ取扱手續

雜則

集産場其他集合販賣市場出願手續

農商務主管ニ属スル團體登記事項及異動報告

二十四年八月十七日 二九四

二十五五年十一月廿九日 二九六

三十二年二月十八日 二九八

十七年十二月一日 二九八

三十二年一月二十九日 二九九

福岡縣令達類纂丁卷目次終

福岡縣令達類纂丁卷

第五編 内務部第四課主管ノ部

農務

農事水産試驗場及測候所

○廳達第六十九号 (明治二十二年六月十九日)

其所職務心得並所務取扱手續左之通り相定ム

職務心得

第一條 本所ハ氣象觀測ノ事務ヲ掌トル所トス

第二條 本所ニ所長壹名所員數名ヲ置ク

第三條 所長ハ所内諸般ノ事件ヲ掌理ス

第四條 所員ハ所長ノ指示ヲ受ケ所務ヲ分擔ス

所務取扱手續

第一條 所長ハ左ノ事務ヲ掌ル

第一 所員ヲ監督シ其進退ヲ具狀スル事

第二 小使ノ勤惰ヲ監シ進退スル事

第二條 左ノ各項ハ所長ヨリ縣廳へ經伺ノ上處分スルモノトス

第一 所員ノ分掌ヲ定ムル事

福岡縣測候所

二十四年廳達第三四號ヲ以テ條中改正

農務

農事水産試驗場及測候所

第二 事務取扱細目ヲ編製シ又ハ更正増補スルコト
第三條 左ノ項ハ所長直ニ處分スルヲ得
一 定額金ヲ遺拂フコト

第四條 所員壹名宿直シ所務ヲ辨シ所内ノ取締ヲナスコト
但宿直ノ翌日ハ事務ノ都合ニヨリ所長ノ差圖ヲ受ケ休暇スルヲ得

○應達第百五十四號 (明治二十二年十二月二十五日)

測候所

其所來ル明治二十三年一月一日開所以後ハ左ノ各所へ暴風警戒ヲ通知シ若松外六ヶ所警察署へハ
電報ヲ發スヘシ

但シ電報料ハ下渡ス
通知スベキ個所

縣廳 福岡警察署 監獄課 福岡市役所

電信ヲ發スルヶ所

若松 久留米 若津 柳河 小倉 行事 八屋
門司 吉井 直方 福島 赤間 甘木ノ各警察署
但シ門司警察署ヲ除ク外陸地ノ警戒ヲ要スルトキニ限ル

○應達第四十五号 (明治二十六年四月二十六日)

二十五年度應達第
五九號ヲ以テ追
加

勸業試驗場長測候所長轉免ノ節事務受渡手續左ノ通相定ム
勸業試驗場 測候所

事務受渡心得

第一條 勸業試驗場長測候所長轉免ノ節事務受渡ハ新任ノ場所長赴任ノ日ヨリ十日以内ニ結了シ
新舊場所長連署其旨届出ヘシ

第二條 場所務中未決ノ事件ハ每件演舌書ヲ添ヘ引繼ヘシ

第三條 諸物品ハ明治二十三年五月應達第百三号物品出納主任交替ノ計算書式ニ準シ計算書ヲ調
製シテ引繼クヘシ

第四條 金錢出納ニ係ル件ハ明治二十四年(一月)應達第十号會計主任交替ノ計算書式ニ準シ計算
書ヲ調製シテ引繼クヘシ

第五條 現職員ノ身分進退ニ關スル事件ニシテ別段ノ意見アルトキハ特ニ詳細ナル演說書ヲ添フ
ルノ外仍口頭ヲ以テ申繼テ爲スヘシ

第六條 受繼キ條件ノ内其措置成規使格ニ背戻スルカ或ハ後來ノ弊害トナリ引受難キ件ニハ其事
由ヲ詳具シ伺出ツヘシ

○應達第八八号 (明治二十七年八月十四日)

測候所

通例警報ノ外暴雨暴風地震大雪等異常ノ事ハ速ニ其觀測ノ實況ヲ詳記シ報告スヘシ

三十一年度臨時第一八號ヲ以テ水産ニ關スル事項ヲ削除

○廳達第三三三號

(明治二十八年三月二十二日)

勸業試驗場

其場名稱ヲ來四月一日ヨリ福岡縣農事試驗場ト改メ場務規程別紙ノ通相定ム

(別紙)

農事試驗場々務規程

- 第一條 農事試驗場ハ知事ノ監理ニ屬シ左ノ事項ニ就キ陸產物ノ増殖改良ヲ圖ルヘシ
- 一 種藝物ノ栽植培養
- 二 農蠶具ノ用法及適否
- 三 農用動植物病虫害ノ豫防及驅除
- 四 有益虫ノ保護蕃殖
- 五 家禽家畜ノ飼育蕃殖
- 六 養蠶
- 七 農產物ノ製造
- 八 土壤肥料飼料及其他ノ分拆鑑定
- 九 巡回講話
- 十 見習生養成
- 第二條 場長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ場中諸般ノ事務ヲ掌理ス
- 第三條 技師技手ハ場長ノ指揮ヲ受ケ場務ニ従事ス
- 第四條 書記ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第五條

場長ハ出張又ハ事故アルトキ首席ノ職員ニ臨時代理セシムルヲ得

第六條

左ニ掲クル事項ハ場長ニ於テ知事ニ經伺シ處分スヘシ

- 一 場中處務細則及見習生入場規則
- 二 試驗事項
- 三 土地建物ノ貸借
- 四 職員ノ管外出張及旅行歸省
- 五 諸收獲及不用品拂下

第七條

但成規ニ依リ公入札又ハ指名入札ニ附スベキ者ハ此限リニアラス

- 一 職員ノ管内出張及旅行歸省
- 二 職員ノ病氣届忌引届及除服出仕
- 三 職員ノ分課担任
- 四 豫算定額内ノ場費支拂
- 五 書籍機械ノ貸與
- 六 見習生ノ入退場

第八條

試驗成績ハ急速ヲ要スルモノ、外試驗終了後三十日以内ニ知事ニ報告スベシ

第九條

職員ノ出張巡回ハ歸場後復命書ヲ以テ五日以内ニ知事ニ報告スヘシ

○訓第二二四號

(明治二十九年四月十四日)

農務

農事水産試驗場及測候所

五

其所來ル五月一日ヨリ一等測候所ノ觀測ヲナシ且地方天氣豫報ヲ發スヘシ
右訓令ス

福岡縣測候所

六

○告示第一一三號 (明治二十九年七月十日)

本縣農事試驗場見習生規程左ノ通相定ム

福岡縣農事試驗場見習生規程

- 第一條 本場農場ニ於テ農事ヲ實習セント欲スルモノハ見習生トシテ入場ヲ許可ス
- 第二條 見習生ノ定員ハ當分三名トス
- 第三條 見習生ハ本縣在籍ノモノニシテ高等小學卒業又ハ之ト同等ノ學力ヲ有シ田畑五反歩以上ヲ所有スル農家ノ戶主又ハ其子弟ニ限ル
- 第四條 見習生ハ年齡十八年以上二十五年以下ニシテ農業ノ勞役ニ堪コルモノトス
- 第五條 品行方正ナラサルモノ或ハ屢々欠業スルモノ等ハ退場ヲ命スルコトアルヘシ
- 第六條 修業年限ハ一ケ年トス
- 第七條 修業滿期ノ時ハ證狀ヲ與フヘシ
- 第八條 見習生所要ノ費用ハ總テ自辨トス
- 第九條 入場セントスルモノハ左ノ書式ニ依リ市町村役場及ヒ郡役所ヲ經テ願出ツヘシ

見習生願書式
願書

私儀農事熱心ニ有之今般御場見習生規程ニ遵ヒ農事修業仕度候間何卒御許可相成度此段奉願
候也

何國何郡何町(村)何番地

現在住所番地寄留又同居

族籍戶主又誰子弟

姓

名

生年月日

年 月 日

福岡縣農事試驗場長某殿

右ハ田畑五反歩以上ヲ所有スル農家ノ戶主(又ハ子弟)ニ相違無之候也

町村長 姓

名 印

第十條 見習生入場ノ許可ヲ得タルキハ左ノ資格アル保証人ヨリ保証書ヲ差出スヘシ

一、保証人ハ丁年以上ノ男子ニシテ縣内ニ一家ヲ立ツルモノニ限ル但保証人ヲ不充分ト認ムル
ルトキハ之ヲ換ヘシム

一、保証人縣外ニ旅行セント欲スルトキハ豫メ相當ノ代理者ヲ立テ福岡縣農事試驗場ニ届ケ置
クヘシ但代理者不充分ト認ムルトキハ之レヲ換ヘシム

一、保証人死去若クハ他府縣ニ轉住スルトキハ直ニ他人ヲ以テ之レニ換ヘ証書ヲ書改ムヘキモ
ノトス

保証書式

農務 農事水産試驗場及測候所

七

保証書

何國何郡何町(村)何番地
現在住所番地寄留又ハ同居
族籍戸主又ハ誰子弟

姓 名 印

生 年 月 日

右ハ今般御場ニ於テ見習生御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守リ場員ノ御指揮ニ従ヒ年限
中必ク修業爲致且本人ニ關スル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申候依テ保証書如件

何縣何國何郡何町(村)何番地

族籍現在住所番地寄留又ハ同居

保證人 姓 名 印

生 年 月 日

年 月 日

福岡縣農事試驗場長某殿

○廳達第一九号 (明治三十一年四月一日)

福岡縣水産試驗場々務規程左ノ通り相定ム
水産試驗場々務規程

福岡縣水産試驗場

- 第一條 水産試驗場ハ知事ノ監理ニ属シ左ノ事項ニ就キ水産ノ増殖改良ヲ圖ルベシ
 - 一 漁具漁撈
 - 二 水産物ノ製造
 - 三 水産物ノ養殖
 - 四 水産ノ調査
 - 五 漁業ノ探見
 - 六 水産學ノ講習
 - 七 巡回講話
- 第二條 水産試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 場 長
 - 技 手
 - 書 記
- 第三條 場長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ場中諸般ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 技手ハ場長ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス
- 第五條 書記ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス
- 第六條 場長ニ於テ出張其他ノ事故アルトキハ首席職員ニ臨時代理セシムルヲ得
- 第七條 左ノ事項ハ知事ニ經伺ノ上處分スヘシ
 - 一 場中處務細則
 - 二 試験事項

三 職員ノ管外出張及旅行歸省

四 漁獲物、生産物、及不用品ノ拂下

第八條 左ノ事項ハ場長ニ於テ便宜處分スルコトヲ得

一 職員管内出張及旅行歸省

二 職員ノ病氣届忌引届及除服出仕

三 職員ノ分課擔任

四 豫算定額内ノ場費支拂

五 書籍器械ノ貸與

第九條 試験成績ハ急速ヲ要スルモノ、外試験終了後三十日以内ニ於テ知事ニ報告スヘシ

第十條 職員ノ出張巡回ハ歸場後復命書ヲ以テ五日以内ニ於テ知事ニ報告スヘシ

○告示第二六七号 (明治三十一年十一月三十日)

本縣水産試驗場ニ於テ漁具貸與規程左ノ如ク定メタリ

但明治廿九年告示第一七四号農事試驗場改良揚繰網貸與規程ハ廢止ス

漁具貸與規程

第一條 本場ニ於テ貸與スヘキ漁具ハ鰻揚繰網、捧受網、及秋刀魚網トシ豫メ使用期限ヲ定メ町村或ハ漁業組合若クハ其聯合団体ニ貸與スルモノトス

第二條 漁具ノ貸下ヲ望ム者ハ甲号書式ノ願書ニ乙号書式ノ設計書ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ本場ニ出願スヘシ

第三條 漁具貸與ノ許可ヲ得タルトキハ丙号書式ノ借用証書ヲ差出スヘシ

第四條 漁具使用心得左ノ如シ

一 使用ニ要スル一切ノ經費及運搬費等ハ總テ使用者ノ負担タルヘシ

一 魚獲物ハ凡テ使用者ノ收得トス

一 鰻揚繰網使用中ハ肩巾七尺五寸以上ノ漁船二艘及肩巾五尺以上ノ手船一艘ヲ要シ之ニ二十七名以上ノ漁夫ヲ乗組スヘシ

一 捧受網使用中ハ肩巾八尺以上ノ魚船一艘ヲ要シ十名乃至十二名ノ漁夫ヲ乗組スヘシ

一 秋刀魚網使用中ハ肩巾七尺五寸以上ノ漁船二艘及肩巾五尺以上ノ口船一艘ヲ要シ四十名以上ノ漁夫ヲ乗組スヘシ

一 乗組漁夫ハ試験着手ヨリ終結迄變更ス可カラス

一 使用中ハ時々染料ヲ施シ破損ノケ所ハ叮嚀ニ修繕ヲ加フヘシ

一 使用中ハ網ノ保存ヲ謀ル爲メ使用後必ス乾燥シ夜間若クハ雨天ノキハ雨覆ヲナスヘシ

一 前項ノ外諸事本場派遣監督員ト協議スヘシ

第五條 貸與漁具使用中監督ノ爲メ本場員ヲ派遣シ諸事ヲ指揮シ又試験上必要ト認メタル場所ニ於テ使用セシムヘシ

第六條 貸與漁具使用滿期ノトキハ充分染料ヲ施シ又破損ノケ所ハ原形ニ修覆シ本場員ノ検査ヲ經テ使用終了後二十日以内ニ指定ノ場所ニ返送スヘシ若シ期限内ニ修覆ヲ終ラズ或ハ修覆不完全ナルトキハ本場ニ於テ修覆ヲ加ヘ其費用ヲ要求スヘシ返送ヲ怠リタルキモ亦同シ

第七條 漁具使用成績及經費ノ収支決算ハ使用終了後一ヶ月以内ニ丁戌書式ニ從ヒ本場ニ報告ス

冊三年告示第八
一號ヲ以テ九條
以下追加

ヘシ

第八條 漁具使用心得ニ違背シ若クハ他ニ不都合ノ所爲アリト認ルトキハ貸與中ト雖之ヲ引揚ル
コトアルヘシ

第九條 第六條ニ對スル償金保証トシテ左記之金額ヲ漁具貸與指令交附ノ際納附セシム

一 飛魚刺網 金拾五圓

一 巾着網 金四拾圓

一 秋刀魚網 金貳拾五圓

一 棒受網 金拾圓

第十條 借入人ニ於テ第六條ノ義務ヲ盡サ、ルキハ本場ニ於テ施行シ其實費ハ第九條ノ保証金ヨ
リ引去リ殘余ハ之ヲ返付ス若シ保証金ニテ實費ヲ充タス能ハサルキハ更ニ不足金ヲ追徴スヘ
シ

甲号書式

(何)網貸與願

今般漁業試驗ノ爲メ御場備付(何)網貸與規程ニ遵ヒ使用致度候間何月何日ヨリ何月何日マテ日
數何十日間何卒御貸與相成度此段奉願候也

年月日

何町村長(又ハ漁業組合頭取)

姓 名 印

(聯合ノキハ各町村長又ハ各組合頭取連印)

福岡縣水産試驗場長某殿

乙号書式

(何)網使用設計書

一 捕魚名 何魚

一 使用漁場 何處

一 使用期限 何日間

一 漁船 肩巾何尺長サ何間ノモノ何艘

一 乗組漁夫 何名

一 費用豫算 何圓

但此費途内譯 何何

一 費用ノ出所 何何

右ノ通り相違無之候也

年月日

何町村長(又ハ漁業組合頭取)

姓 名 印

(聯合ノキハ各町村長又ハ各組合頭取連印)

福岡縣水産試驗場長某殿

丙号書式

(何)網借用証書

一 (何)網 壹 統

右御貸與相成正ニ借用候也

農務

農務水産試驗場及測候所

年月日

何町村長(又ハ漁業組合頭取)

姓

名印

福岡縣水産試験場長某殿

(聯合ノキハ各町村長又ハ各組合頭取連印)

丁号書式

(何)網試験成績報告書

試験日誌

一 試験組織

一 使用期日

試験成績表

何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事
何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事
何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事
何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事
何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事
何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事
何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事
何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事
何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事
何日	何月	何場所	水深	底質	天候	潮流	使用回数	魚獲	捕獲高	價格	記事

備考

- 一 網ノ使用上大体ノ便否及各局部ノ構造適否ノ如何ニ就キ意見アレハ之ヲ報告スヘシ
- 一 漁船ノ構造上及漁場ノ如何ニヨリ網ノ使用上ニ起ル關係アラハ詳細ニ其顛末ヲ報告スヘシ
- 一 網ノ潮流中ニ於ケル弛張ノ工合、網目ノ權衡、接網ノ結方、浮子、沈子ノ對合及其他改良ヲ

要シ將來ニ應用スヘキモノアラハ其意見ヲ報告スヘシ

右ノ通りニ候條此段及報告候也

何町村長(又ハ漁業組合頭取)

姓

名印

(聯合ノキハ各町村長又ハ各組合頭取連印)

福岡縣水産試験場長某殿

戊号書式

(何)網試験ニ對スル經費支出及收入決算報告書

一金何圓

支出高

内

一金何圓

物名

一金何圓

物名

内

一金何圓

收入高

金何圓

數量魚名

金何圓

數量魚名

差引

一金何圓

損益

以上

農務

農事水産試験場及測候所

右及御報告候也

年月日

何町村長(又ハ漁業組合頭取)

姓名印

(聯合ノキハ各町村長又ハ組合頭取連印)

福岡縣水産試験場長某殿

講習所及講習和會

○告示第三一號 (明治二十九年三月十九日)

明治廿七年農商務省令第八号ニ依リ養蚕講習所規程左ノ通相定ム

養蚕講習所規程

- 第一條 本所ハ養蚕應用ノ學理ト實地飼育法ヲ授ケ自ラ其業ヲ操ルヘキ者ヲ養成スルヲ目的トス
- 第二條 本所ハ本縣農事試験場内ニ設置シ知事之ヲ監督ス
- 第三條 本所開閉ハ當分ノ間四月七日ヨリ六月十五日迄トス
- 第四條 講習生ノ定員ハ廿七名トス
- 第五條 本所ノ課程ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 一 飼育法
 - 二 蚕体生理及病理學
 - 三 以上口授
 - 四 飼育法實習

冊年告示第三七
号ヲ以テ改正

四 蚕種製造法實習

五 顯微鏡實習

- 第六條 授業ハ口授實習ノ二トシ其口授ニ係ルモノハ總テ筆記セシムルモノトス
- 第七條 講習生ハ左ノ資格ニ該當スルモノニ限ル
 - 一 年齡滿十七年以上ノ男子ニシテ品行方正兼テ蚕業ニ熱心ナルモノ
 - 一 高等小學校全科卒業若クハ之ニ齊シキ學力ヲ有スルモノ
- 第八條 入所セントスルモノハ左ノ書式ニヨリ市町村役場及郡役所ヲ經テ願出ツヘシ

入所願

族 藉

氏 名

生 年 月

私儀今般養蚕講習ノ爲メ入所仕度候間御許可被成下度保証人連署ヲ以テ此段願上候也

郡村番地

氏 名 印

右保証人

郡村番地

氏 名 印

(保証人ハ蚕糸業組合長若クハ同業取締所頭取ニ限ル)

宛

第九條 講習生入所中不都合ノ所爲アルカ若クハ學力不足懶惰ニシテ修業ノ見込ナキモノハ退所ヲ命スルコトアルベシ

第十條 講習生ハ總テ講習所内ニ寄宿セシムルモノトス

但講習生取締規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 講習ノ終ニ於テ全科卒業ノ者ニハ修得証ヲ附與ス

第十二條 講習生所要ノ費用ハ總テ自辨トス

第十三條 講習生ノ食費等ハ農事試験場ノ指示スル時期ニ於テ納付スベシ

○訓第一八五号 (明治三十一年三月三十一日)

郡役所 市役所

町村役場

明治二十八年(一月)訓第二一號訓令農事講習所規則別紙ノ通り改正シ本年四月一日ヨリ施行ス右訓令ス

農事講習所規則

第一條 本所ハ簡易ナル農理ト其應用法トヲ授ケ自ラ其業ヲ操ルヘキ者ヲ養成スルヲ目的トス

第二條 設置區域ハ一郡ヲ以テ一區トシ毎年一回乃至二回便宜ノ場所ニ之ヲ開ク

第三條 本所ハ町村組合又ハ郡農會若クハ一個人之ヲ設立スルコトヲ得ルト雖モ其管理ハ郡長之ニ任スルモノトス

併二年訓第八六号ヲ以テ改正

第四條 開所期限ハ毎年六週日トシ授業時間ハ毎日五時間トス但事宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 修業年期ハ一ケ年トス

第六條 教師ハ本縣農事試験場技師技手ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 前條ノ外必要アルトキハ一區又ハ數區聯合シテ別ニ教師ヲ置クコトヲ得

第八條 講習生ノ定員ハ一ケ所拾五名以上トス

但シ志願者多數ナルトキハ其員數ヲ制限スルコトアル可シ

第九條 課程ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ獸醫蹄鉄水産等臨時課定ヲ加フルコトアルヘシ

一 種藝汎論

二 土壤論

三 肥料論

四 作物論

五 養蚕論

六 養畜論

七 農業經濟

八 實習

第十條 授業ハ講話實習ノ二トシ其講話ニ係ルモノハ總テ書籍ニ據ルモノトス

第十一條 講習生ハ修業期限内教師ノ指揮セル事項ニ從ヒ實習地又ハ各自所有地ニ於テ栽培耕耘ノ方法ヲ實習スルモノトス但シ時機ニ依リ農事試験場農場ニ就キ教示スルコトアルヘシ

第十二條 生徒募集ハ毎年トス
 第十三條 講習生ハ左ニ該當スルモノニ限ル
 一 年齢滿十四歳以上ニシテ品行方正素農事ニ熱心ナルモノ
 一 高等小學校第二學年卒業以上若クハ之ニ齊シキ學力アルモノ
 第十四條 入所セント欲スルモノハ左ノ書式ニ據リ町村役場ヲ經テ所轄郡長ニ差出スヘシ
 (書式)

入 所 願

族 籍 姓 名 生年月日

私儀今般何郡農事講習所ニ入學修業仕度候間御許可被下度此段保證人連署ヲ以テ願上候也

右

郡 長 宛

住 所 誰 誰 某 印 某 印

右保證人

第十五條 生徒若シ疾病事故ニ依リ退學セント欲スルトキハ保證人連署ヲ以テ願出ヘシ
 第十六條 講習ノ終ニ於テ學科ノ試驗ヲ行ヒ全科卒業ノモノニハ卒業證ヲ一部及第ノモノニハ其學科目ニ就キ習得證ヲ授與スヘシ

第十七條 講習所設備(第六條ノ費)ニ係ル費用ハ設立者ノ負擔トス

○訓第七七號 (明治三十二年二月二十三日)

害蟲驅除講習會規程左ノ通り相定ム

郡 役 所 農事試驗場
 市 役 所 町村役場

害蟲驅除講習會規程

- 第一條 本會ハ害虫驅除豫防ノ大意ヲ講究スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ノ區域ハ一郡市ヲ以テ一區トシ郡市長ニ於テ便宜ノ場所ニ開會スルヲ得
 但開會ハ豫メ本縣農事試驗場長ニ協議ノ上郡市長ヨリ之ヲ縣知事ニ報告スルモノトス
- 第三條 本會開會ノ期日ハ五日間トシ其時間ハ毎日五時間以上トス
 但時宜ニ依リ伸縮スルヲ得
- 第四條 本會ノ講師ハ本縣農事試驗場技師若クハ技手ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 本會會員ハ各郡市町村ノ害虫驅除豫防監督委員ヲ以テ之ニ充ツ
- 第六條 本會講話ノ課目ハ凡左ノ如シ
 一 昆蟲學大意
 一 害虫及益蟲
 一 標本製造

一 實習

第七條 本會ノ經費ハ(第四條ノ費)設立者ノ負担トス

○福岡縣訓令第三〇号

(明治三十二年十二月二十日)

郡市役所

縣農事試驗場

郡市林業講話會規程左ノ通相定ム

林業講話會規程

第一條 各郡市ニ於テ林業ニ關スル學理及其應用ヲ講究スルカタクメ林業講話會ヲ開カントスルルルハ本規程ニ依リ之ヲ開設スヘシ

第二條 講話會ノ講師ハ本縣農事試驗場技師若クハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 講話會ハ郡市ヲ以テ一區域トシ開會ノ場所及時期ハ郡市長ヨリ縣知事ニ届出ツヘシ

前項ノ時期ヲ定ムルルルハ郡市長ハ豫メ本縣農事試驗場長ニ協議スルヲ要ス

第四條 講話會ノ會期ハ一回七日間トシ講話時間ハ毎日五時間トス但時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルヲ得

第五條 講話會ノ課目左ノ如シ

- 一 造林
- 一 利用
- 一 設制

第六條 講話會員ハ拾名以上ヲ定員トシ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

一 年齡滿十四歲以上ニシテ品行方正ナルモノ

二 高等小學校第二學年卒業以上若クハ之ニ等シキ學力アルモノ

前項ノ資格ハ地方ノ情況ニ依リ之ヲ斟酌スルヲ得

第七條 講話會ノ經費(第二條ノ講師手當及ヒ旅費ハ農事試驗場ヨリ支辨)ハ郡市若クハ郡農會ノ負担トス

○福岡縣告示第一二八號

(明治三十三年四月十一日)

水産講話會規程左ノ通り相定ム

水産講話會規程

第一條 本規程ニ於テ水産講話會ト稱スルハ郡市又ハ漁業組合ノ費用ヲ以テ開設スル水産業ニ關スル講話會ヲ謂フ

第二條 水産講話會ハ漁業ニ従事スルモノニ對シ漁撈製造蕃殖等ニ必要ナル事項ヲ説話シ並ニ之ヲ實習セシムルヲ以テ目的トス

第三條 水産講話會ノ會員ハ年齡十八年以上五十年以下ニシテ一回五名以上タルヲ要ス

第四條 水産講話會ノ講師ハ本縣水産試驗場員中ヨリ之ヲ派遣ス

第五條 水産講話會ヲ開設セントスルルルハ豫メ講話并ニ實習ノ事項ヲ定メ其會計年度前ニ於テ開設者ヨリ之ヲ本縣水産試驗場長ニ協議ス可シ

第六條 水産試驗場長ニ於テ前條ノ協議ヲ受ケタルルルハ其事項ノ輕重緩急ニ應シ繰合ヲ以テ場員派遣ノ有無并ニ派遣ノ日數ヲ定メ之ヲ開設者ニ通知スヘシ

附則

第七條 第六條ノ協議期限ハ本年ニ限り四月廿日迄トス

農會

○訓第六〇六號 (明治三十年九月二十日)

郡役所

郡農會ヨリ當廳へ差出ス文書ハ自今縣農會ヲ經由セシムヘシ
右訓令ス

○福岡縣訓令第六九号

(明治三十三年五月十三日)

郡市役所

農會令施行心得左ノ通り定ム

農會令施行心得

- 第一條 郡市長ハ市町村農會ヲシテ會務上必要ノ諸帳簿ノ外其會員名簿ヲ備ヘシムヘシ
會員名簿ニハ其名譽會員タル耕地又ハ牧場ノ所有者タルト農業ヲ營ムモノタルトノ別ヲ記シ
且區域内ニ於テ會員ノ所有又ハ占有スル耕地及牧場ノ面積ハ之ヲ其人名ノ上ニ記入スヘシ
- 第二條 郡市長ハ市町村農會ニシテ農會令第四條ノ條件ヲ闕キタルトキ町村農會ニ在リテハ會長
ヨリ町村長ヲ經テ郡長ニ市農會ニ在リテハ會長ヨリ市長ヲ經テ縣知事ニ其都度直ニ之ヲ申報セ
シムヘシ

第三條 農會令第七條ニ依リ郡市町村農會ノ設立ヲ申請シ又ハ該令第二十六條ニ依リ從來設立シ

タル郡町村農會ノ認可ヲ申請スル場合ハ市町村農會ニアリテハ左ノ第一乃至第四ノ事項ヲ郡農
會ニアリテハ第五第六ノ事項ヲ各其申請書中ニ記載セシムヘシ

一 會員ノ數

- 二 區域内ニ於テ耕地及牧場ヲ所有スルモノ、數並ニ農業ヲ營ムモノ、數
- 三 區域内ニ於テ會員ノ所有又ハ占有スル耕地及牧場ノ總面積

四 區域内ニ於テ私用ニ供スル耕地及牧場ノ總面積

五 郡農會ヲ組織スル町村農會ノ數

六 郡内ニ於ケル町村及町村組合ノ數

前項ノ事項ハ申請書提出ノ際町村農會ニアリテハ町村長郡市長農會ニアリテハ郡市長ニ於テ之ヲ
證明スヘシ

第四條 郡市長ハ農會令第六條ニ依リ郡市町村農會ニ加入セサルモノニ對シ加入ヲ命スルノ必要
アリト認ムルトキハ其事由ヲ具シ之ヲ縣知事ニ稟議スルコトヲ得

第五條 郡長ニ於テ從來設立シタル町村農會ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其都度縣知事ニ報告スヘシ

第六條 郡市長ニ於テ郡市町村農會ニ對シ農會令第二十條ノ處分ヲ要スト認ムル場合ハ事由ヲ具
シ之ヲ縣知事ニ申告スヘシ

共進會品評會

○縣達第六号

(明治二十四年二月二日)

郡役所 市役所
各地方ニ於テ博覽會共進會其他之ニ類似ノ會ニシテ褒賞ヲ附與スルモノヲ開設シタルトキハ左ノ書式ニ準シ閉會後其都度二十日限リ報告スヘシ

但明治十九年本縣甲第八十四号達ハ廢止ス

明治何年官設何會報告書

會場地名

國郡町名

何博覽會何共進會ト記スヘシ(例ヘハ水産博覽會關係共進會ト云フカ如シ)其ナキモノハ單ニ博覽會共進會物産會展覽會品評會ト記スヘシ

會主

何郡市町村或ハ何會社或ハ何某

開場

何月何日

褒賞授與式

何月何日

閉場

何月何日

出品區域

何郡市何町村聯合

出品人員

何人

出品員數

若干

出品總價

何圓錢

出品種類

農産水産或ハ陶器漆器織物等成ヘク詳細ニ記スヘシ且農産水産ハ其物品ヲ詳細ニ記スヘシ

出品賣數

若干

出品賣價總額

何圓錢

褒賞總人員

何人

褒賞等級別

一等人二人三等人褒狀何人追賞何人功勞賞何人協贊賞何人

褒賞々與物件

杯或ハ牌或ハ何物品或ハ金圓(譬ヘハ一何物品或ハ金圓三等何々)等成ヘク詳細ニ記スヘシ

來觀人員

何人

通券價額

何錢(日曜日平日等ノ區別アレハ各別ニ記スヘシ)

通券收額

何圓錢

會費總額

何圓錢

會費ノ區別

郡市町村稅何圓通券料何圓或ハ醜金義捐金等成ルヘク詳細ニ記スヘシ

本會景況云々

(譬ヘハ特殊發見ノ礦物或ハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ或ハ陶漆器織物其他製作品ノ著シク改良進步セシ或ハ從來其地ニナクシテ新クニ製作移植セシモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等郡テ工藝品農作物水産物ニ關シ會場ノ景況ハ勿論後來ニ希圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ヘク詳密ニ記載シ且連年開設ノモノハ前年ノ比較テ掲ケ又民設ニ係ルモノハ其損益及ヒ保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ)

右報告候也

郡市長 氏

名

○縣令第二三號 (明治二十九年三月四日)
共進會品評會褒賞費補助規程左ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

共進會品評會褒賞費補助規程

第一條 縣下ニ於テ重立ツ物産又ハ將來有望ナル物産ニ付キ郡市若クハ其聯合又ハ組合團體〔郡市若クハ縣下全般ニ亘リタル組合ハ之ヲ通シタル團體以下做之〕ニ於テ農産水産工業品ノ共進會又ハ品評會ヲ開クトキハ其褒賞費ニ限リ左ノ割合ヲ以テ之ヲ補助スヘシ
出品二百点以上

拾圓以上貳拾五圓以内

同 五百点以上

同 貳拾五圓以上四拾圓以内

同 千点以上

四拾圓以上七拾圓以内

第二條 立毛共進會ハ一市町村ニ於テ一人ノ耕作スル田畑ヲ以テ一点ノ出品ト見做シ第一條ノ割合ヨリ補助スヘシ

第三條 褒賞費ノ補助ハ一ケ年一郡市凡ソ一會ヲ目的トス但米、麥、茶、繭、生糸、織物、蠟、蠟、製藍、製絲、菓菜、水産品、畜産ノ一種若クハ數種ニ限リ更ニ一回若クハ二回ノ補助ヲ加フルコトアルヘシ

第四條 補助金額ハ第一條ノ如ク定ムト雖出品種目ニヨリテハ獎勵ノ緩急ヲ計リ之ヲ増減スル

廿一年縣令第五
七號ヲ以テ改正

コトアルヘシ

第五條 郡市又ハ組合團體ヨリ補助金ノ給與ヲ請求スルモ豫定ノ數ニ超過スルトキハ其請求ノ前後ト其開設スヘキ物産ニ就キ之ヲ許否スルコトアルヘシ

第六條 補助費ノ給與ヲ請求セントスルトキハ左ノ各項ヲ具申スヘシ

- 一 開會ノ目的及其事由
 - 二 開會ノ區域、地名、及日數
 - 三 出品種目及其員數
 - 四 會則〔審査ノ方法〕
 - 五 會ニ係ル經費豫算ノ收支内譯
- 第七條 褒賞授與式舉行ノ日時ハ豫メ之ヲ申報スヘシ
其褒賞ハ臨席官ヨリ縣名ヲ以テ交付スルモノトス

○訓第五九二号 (明治二十九年十月九日)

郡役所 市役所

本年縣令第二三號共進會品評會補助規程ニ據リ授與スル褒賞ハ左ノ書式ニヨリ調製スヘシ
右訓令ス

用紙ハ堅質ノ厚紙ヲ用ヒ横一尺五寸豎一尺以上
褒賞

縣都市町村字

何等賞 何々(出品名)

氏

名

右何郡市(又何々組合)何々會審査長ノ薦告ニヨリ之ヲ授與ス

年月日

福岡縣知事位勳爵 姓 名

森林

廿二年縣令第二
七號ヲ以テ舊式
及圖面中改正

○縣令第一〇號 (明治三十二年二月二十一日)
森林法施行手續左ノ通り相定ム

但明治卅一年縣令第三〇號ハ自今廢止ス

森林法施行手續

- 第一條 森林法第六條ニ據リ森林ノ開墾ヲ出願セントスルモノハ本則第一號書式ニ依ルヘシ
- 第二條 森林法第十條ニ據リ保安林ノ編入又ハ解除ヲ申請(官廳ヨリハ通知)セントスルモノハ本則第二號乃至第三號書式ノ申請書(又ハ通知書)及調書ヲ差出スヘシ
- 第三條 森林法第二十條ニ據リ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取樹根ヲ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ出願セントスルモノハ本則第四號乃至第五號書式ノ願書ヲ施業一ヶ月前ニ之ヲ差出スヘシ
- 前項許可ノ効力ハ許可ノ日ヨリ滿一ヶ年トス
- 第四條 保安林ニ於テハ特ニ命令アルモノヲ除クノ外其施業ノ方法左ノ各項ニ依ルヘシ
 - 一 施業ハ一ヶ所(編入調書ノ一筆チ一ヶ所トス)毎ニ之ヲ爲ヘシ

但シ保安林ノ種類同一ニシテ所有者同一ナルカ若クハ所有者異ナルモ各所有者合意ニテ同一事業ヲ爲サントスル場合ニ於テ保安上ノ目的ヲ害セスト認ムルキハ二ヶ所以上ノ保安林ヲ併合シテ一施業ヲ爲スコトヲ得

- 二 斫伐法ハ擇伐又ハ群成擇伐ヲ用フルモノトス
- 三 毎年ノ擇伐區域ハ立木地全面積ヲ輪伐齡チ以テ除シ得タル商ノ三倍ヨリ小ナルコトヲ得ス
- 四 擇伐又ハ群成擇伐面積(斫伐スヘキ立木ノ占領面積)ハ立木地全面積ヲ輪伐齡チ以テ除シ得タル商ノ五分ノ四ヲ超フルコトヲ得ス
- 群成擇伐ハ可成箇所ヲ増シ一箇所ノ面積ハ力メテ狭小ナラシムヘシ
- 但手入間伐及被害木ノ斫伐ハ此限リニアラス
- 五 輪伐齡ハ左ノ標準ニ據ル

- 矮林十五年以上
- 喬林六十一年以上
- 竹林三年以上

中林ニアリテハ上木ハ喬林ノ輪伐齡下木ハ矮林ノ輪伐齡

第五條 保安林ニ於ケル擇伐群成擇伐及手入間伐并ニ被害木ノ斫伐ハ本則第六號ノ書式ニ依リ毎年着手一ヶ月前ニ之ヲ縣知事ニ届出ツヘシ

第六條 現在ノ保安林并ニ將來保安林ニ編入スヘキ箇所ニシテ荒廢ニ属スルモノハ十ヶ年以内ニ造林スヘシ

第七條 森林開墾并ニ保安林ニ於ケル土石切芝ノ採取及樹根ノ採掘ハ過度ノ傾斜地ニ於テ爲スト

ヲ得ス
 切芝ノ採取ハ巾一尺以内トシ其間隔ハ少ナク巾二尺以上ヲ保タシムヘシ
 但傾斜地ニアリテハ水平ニ採取スルヲ要ス
 第八條 牛馬ノ放牧ハ放牧地區域外ニ逸出セサル爲メ罅谷等ヲ以テ境界トシ又ハ垣柵ノ類ヲ設ク
 第九條 本則ニ據リテ提出スル願書申請書届書ハ渾テ所在地市町村長ヲ經由スヘシ
 第一号書式

森林開墾願

何郡市何町村大字何字何番地〔敷番地ニ直ルトキハ列記スヘシ〕

一山林何反何畝歩

但明治何年何月ヨリ何年何月迄何ケ年季

地價金何圓何拾何錢何厘

〔内反別ノ開墾ナルキハ左ノ如ク記載スヘシ〕

内

反別何反何畝歩

開墾

但明治何年何月ヨリ何年何月迄何ケ年季

右今般何地(田、畑、宅地、等其目的トスル名稱ヲ掲ク)ニ開墾致度候ニ付御許可相成度實地見
 取圖(内反別ノ開墾ニ係ルモノハ見取圖ノ外尙ホ丈量圖ヲ添付スヘシ)相添此段相願候也

何郡市何町村大字何番地

年月日

地主 何 某印

廿二年縣令第七
二號ヲ以テ宛名
下書消滅

縣知事宛

第二号書式

保安林編入申請書

何郡市何町村大字何字何番地

一園有山林〔又ハ民有原野等〕 何町何反何畝歩

〔内反別ノ編入ナルトキハ左ノ如ク記載スヘシ〕

内

何町何反何畝歩

右今般何々ノ事由(編入ニ必要ナル理由ヲ詳記スヘシ)ニ依リ保安林ニ編入相成度別紙編入調書
 並ニ圖面相添此段申請候也

何郡市何町村大字何番地

年月日

申請者 何 某印

縣知事宛

保安林編入調書

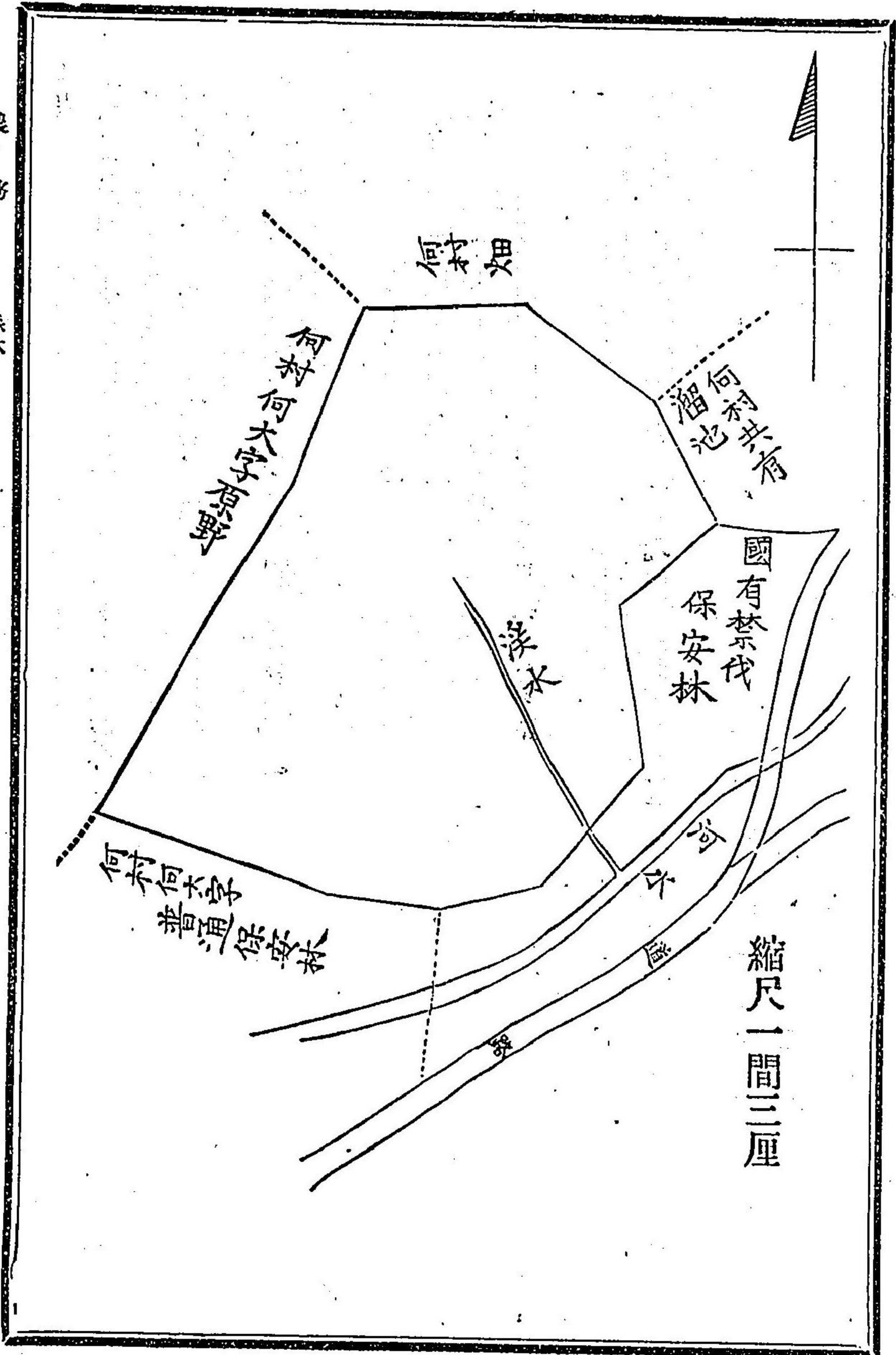
所在地(林名共)

福岡縣何郡市何町村大字何字何番地何山又ハ何林

所有者住所氏名

現							申請者住所氏名
林	境	地	土	傾	保安林地價	保安林編入面積	
齡	界	表	性	斜		積	
五十年乃至七十年生ヲ主トシ間々十二三年生ノモノヲ混ス	東ハ其所有ノ無立木ナル山林南ハ何村共有秣場西及北ハ官有原野ニ接ス	落葉朽土少ナク稍乾燥ニシテ灌木及雜草疎生シ苔蘚ハ谿畔ニ少許ヲ見ルンミ	上層ハ埴質壤土(埴土、埴質壤土、砂質壤土、砂土)ニシテ砂及礫ヲ混ス深サ六寸次ハ砂質埴土、埴土層砂層及礫層ニシテ其合計深サ二尺基岩ハ綠岩ニシテ所々ニ露出ス	平均凡三十度		七十五町步	

業 施		編入ノ事由	況					
輪 伐 齡	伐採法又ハ禁伐		保安林種類	疎密疎	慣行ノ伐期	雜產物	慣行ノ施業	被害ノ狀況
百年	擇伐	水源涵養林		八九十年	蔬菜落葉下草等少許	需要ヲ俟チ擇伐ス平均一ケ年全面積ノ伐採千四百尺ノニシテ空隙ニハ扁柏苗ヲ補植ス	長樹ノ伐採過量ナルカ爲メニ林相亦昔日ノ觀ナク餘水著シク減少シ小雨ニモ土砂ヲ流シテ混濁ス	扁柏六步花柏四分



關係區域	領要法				
	取締法	地盤保護工事	手入法	播種法	伐採面積
何村何村ノ水田灌溉ニ影響シ其反別凡何町歩ナリ	野火ノ延焼ヲ防クニ注意シ豫メ周圍ニ幅五間以上ノ防火線ヲ設ケシム	砂防ノ爲メ積苗工ノ施行ヲ要ス	適宜灌木ヲ刈除シテ稚樹ノ生育ヲ保護シ且今後何年間ニ若干ノ間伐ヲ許ス	自然生テ撫育シ且務メテ扁柏ヲ補植シ速ニ密林ト爲スヲ要ス	七反五畝歩 落葉ノ採收ノミヲ許ス

備考

用紙ハ摺水引美濃紙縮尺度ハ二千分ノ一トシ一ヶ所毎ニ一圖トシ左ノ各項ヲ明示スルヲ要ス
 一 調査箇所及其附近ノ地形
 二 調査ニ於ケル林況並ニ地物ノ配置
 三 境界並ニ隣接地ノ種類
 内反別ノ編入ニ係ルキハ其部分ヲモ明示スヘシ

第三号書式

保安林解除申請書

何郡市何町村大字何字何番地

一國有禁伐普通保安林何町何反何畝歩

(内反別ノ編入ナルキハ左ノ如ク記載スヘシ)

内

何町何反何畝歩

右今般何々ノ事由(解除ニ必要ナル理由ヲ詳記スヘシ)ニ依リ保安林ヲ解除セラレ度別紙調書并
 ニ圖面相添此段申請候也

何郡市何町村大字何番地

何 某 印

年月日

縣知事宛

保安林解除調書

所在地(林名共)	保安林種類	所有者住所氏名	申請者住所氏名	通知者住所氏名	全面積	保安林面積	解除面積	保安林地價	傾斜

土性	地界	境	林齡	林種	疎密	現行ノ伐期	雜產物	現行ノ施業	關係區域

解除ノ事由

備考

- 一記載例其他編入調書ノ例ニ依ルヘシ
- 二圖面モ前例ニ全シ

第四号書式

保安林土石切芝採取願

何郡市何町村大字何字何番地

一國有保安林何町何反何畝歩ノ内

右ノ場所ニ於テ何々ノ爲メ何年何月ヨリ何年何月マテ土石切芝採取願

作業書并ニ圖面相添〔國有林ナレハ其所管官署ノ許可書寫ヲモ添フ〕此段相願候也 致度候ニ付御許可相成度別紙

何郡市何町村大字何番地

年月日

縣知事宛

地主（國有林ナレハ作業人）何

某印

土石切芝採取
樹根採掘 作業書

所在地 何郡市何町村大字何字何番地

全 面 積	何町何反何畝歩
採取地面積	何反何畝歩
採取物種類	石灰石陶土等(土石採取願ニノミ之ヲ要ス)
樹 根 本 數	何株(樹根採掘願ニノミ之ヲ要ス)
採 取 立 積	何坪何合(土石採取願ノミニ之ヲ要ス)
區 域 內 現 狀	林木種林齡疎密及土性地表ノ概略
傾 斜 度	何十度
河 流 ノ 距 離	何川へ何町
跡 地 施 業	埋没又ハ埋没ノ上植樹スル等

備考
 一 河流トハ該地雨水ノ直接流入スル河流ヲ云フ
 二 圖面ニハ採取又ハ採掘スヘキ物体ノ所在ヲ明示スルヲ要ス

第五号書式
 保安林牛(馬)放牧願
 何郡市何町村大字何字何番地
 一 國有保安林何町何反何畝歩ノ内
 右ノ場所ニ於テ牛(馬)放牧致度候ニ付御許可相成度別紙作業書并ニ圖面相添(國有林ナレハ其所管官署ノ許可書寫ヲモ)添フ此段相願候也

何郡市何町村大字何何番地
 作業人 何 某印
 何郡市何町村大字何何番地
 地主 何 某印

年 月 日
 縣 知 事 宛
 牛(馬)放牧作業書

所 在 地 何郡市何町村大字何字何番地

境	界	東ハ何某所有山林西ハ何村共有秣場西ハ溪水ヲ隔テ、何某所有ノ田地ニ接ス						
全	面	積	何町何反歩					
放	牧	地	面積	何町何反歩				
傾	斜	度	何十度					
區	域	内	ノ	現	狀	林木種林齡疎密及土性地表ノ概略		
放	牧	ス	ヘ	キ	牛	馬	數	牛何頭馬何頭
放	牧	ス	ヘ	キ	時	期	何年何月ヨリ何年何月マテ	
放	牧	ニ	關	ス	ル	設	備	區域外ニ逸出セシメサル爲メ何何ニ柵垣ヲ設ケ又ハ何々ノ幼樹ヲ害セサル爲メ何々ニ柵垣ヲ設ク等

備考
一 圖面ニハ柵垣等ノ設備ヲモ記入スヘシ

第六号書式

保安林木斫伐届
何郡市何町村大字何字何何番地
一 國有保安林木何町何何畝歩ノ内
右ノ場所ニ於テ本年中別紙作業書ノ通リ擇伐(群成擇伐)(手入間伐)(被害木竹斫伐)仕候依リテ
圖面相添此段御届仕候也

年 月 日
縣 知 事 宛
保安林木斫伐作業書
何郡市何町村大字何何番地
地主(國有林木ナレバ作業者) 何 某 印

所	在	地	何郡市何町村大字何字何何番地	
全	面	積	何町何反何畝歩	
立	木	地	全面積	何町何反何畝歩
林	木	種	杉何分何何分	

林齡	何年生ヨリ何年生ノモノヲ主トシ間ニ何年生ノモノヲ混ス
輪伐樹種	杉何年生何本松何年生何本
擇伐區域	何反何畝歩
擇伐面積	何反何畝歩
群成擇伐面積	何反何畝歩
群成擇伐箇所	何箇所
手入間伐	斷而何々ノ部分ハ杉何年生一反歩凡何本生立セルニ依リ此ノ杉ノ成長ヲ圖ランカ爲メ一反歩ニ付何本宛ヲ間伐ス云々
被害木斫伐	斷面何々ノ部分何々ノ爲メ枯損ノ分目通何寸乃至何尺ノ何樹何本ヲ伐採ス
蕃殖法	伐採迹地ハ何樹ノ自然生ヲ拾育シ若クハ何樹ヲ植栽ス云々

作業期間	本年内斫伐ハ何月何日ヨリ何月何日マテ植栽ハ何月何日ヨリ何月何日マテ
備考	一中林ノ樹木斫伐ノ場合ニハ第四欄ヨリ第七欄ニハ上木ト下木ノ内譯ヲ記スヘシ 二斷面ニハ斫伐スヘキ部分ヲ明示スルヲ要ス
<p>○訓第一三三三号 (明治三十二年三月二十五日)</p> <p>郡役所 市役所</p> <p>明治三十年法律第四十六号森林法第五十六條ニ依リ造林地ノ地租免除ヲ請ハントスルモノハ明治三十一年大藏省令第十八号ニ依リ所轄稅務管理局長ニ出願スヘキ規定ナリ然ルニ右免租年期ノ查定方ニ付テハ稅務管理局長ハ其都度當廳ニ協議スヘキ筈ニテ當廳ハ之ヲ所在地郡市ニ移牒スヘク候ニ付其際ハ實地調査ノ上左式ノ如ク意見具申致スヘシ</p> <p>右訓令ス</p> <p>造林地免租出願ニ付實地調査意見書</p>	
出願者住所氏名	縣都市町村大字地番何 某
出願地所在	縣都市町村大字地番字名
地目	原野又ハ山林

從來ノ狀況	從來蒨疎雜草ノミニテ曾テ立木ヲ生シタルヲナシ又ハ何年前伐木ノ後蒨地トナリタリ
全面積	何町何反何畝歩
造林面積	何反何畝歩
地積	畚、峰、丘、等
傾斜	平均何度
土性	最良、良、中庸、惡、最惡等
樹種	杉何本松何本等
植付月日	何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ
伐期	何年
免租查定期	何年

備考
免租年期ノ査定方ハ喬林及中林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以上二十五箇年以内矮林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以内ノ範圍ニ於テ各々其地味ノ良否造林ノ難易ヲ斟酌シテ之ヲ區別ス

○福岡縣令第四号 (明治三十三年一月二十五日)

明治三十一年(八月)縣令第五〇號森林獎勵補助費下附規則左ノ通改正ス

造林獎勵補助費下附規則

- 第一條 市町村及公共組合并私人ニシテ山林原野ニ植樹スルモノハ本規程ニ依リ其費用ヲ補助ス
- 第二條 補助スヘキ樹種ハ杉扁柏松檉檉栗檉ノ七種トシ其樹苗ハ播種ヨリ二年乃至四年ヲ經生育善長ノモノヲ用ヒタルモノニ限ル
- 第三條 杉扁柏ノ挿木ニシテ善長ナルモノハ苗木ニ準シテ之ヲ補助ス
- 一 保安林内ノ植樹ニ屬スルモノ
- 二 市町村、公共組合ノ事業ニ屬スルモノ
- 三 私人ノ事業ニ屬スルモノ
- 四 第二條ニ掲ケタル七種ノ樹林伐採迹ノ植樹ニ屬スルモノ
- 第四條 補助費下付ノ割合左ノ如シ
 - 杉 苗木壹千本ニ付 金壹圓五拾錢以内
 - 扁柏檉栗 苗木同 金貳圓以内
 - 樟 苗木同 金壹圓貳拾錢以内
 - 苗木同 金壹圓五拾錢以内
- 第五條 補助費下付スヘキモノニシテ左ニ該當スルモノハ前條金額ノ外尙其十分ノ五以内ノ割増補助金ヲ與フ
- 一 保安林内ニ植樹スルモノ

一 自個ノ費用ヲ以テ砂防工事ヲ施行シテ植樹スルモノ
 一 苗木若ハ挿木ノ最モ善良ナルモノヲ用ヒ且其植付挿立及手入保護ノ方法周密ニシテ特ニ一般
 造林者ノ模範トナスニ足ルト認ムヘキモノ

第六條 本規程ニ依リ植樹スルモノハ土地ノ情況ニ因リ特別ノ事由アルモノ、外總テ左ノ標準ニ
 遵フヲ要ス

一 杉扁柏 壹反歩ニ付六百本乃至千貳百本
 一 松檫栗樟 全 貳百本乃至四百本
 一 樟 全 五十本乃至百本

第七條 左ノ事項ニ該當スルモノハ補助費ヲ與ヘス

一 國縣郡ノ費用又ハ其補助ニ依リテ砂防工事ヲ施行シテ植樹スルモノ
 一 一ヶ所ノ植付一反歩ニ滿タサルモノ 〔字地番異ナルモ接境地ナルトキハ一ヶ所ト見做ス〕

第八條 補助ヲ請ハントスルモノハ第一号書式ノ願書ニ左記各項ノ書類ヲ添ヘ秋植ニアリテハ其
 年七月マテニ春植ニアリテハ前年十一月マテニ豫メ縣知事ニ出願許可ヲ受クヘシ

一 植付地ノ圖面(隣接ノ地目道路河川等ヲモ記入)

一 植付後ノ手入保護法ニ關スル書類

一 市町村公共組合ノ事業ニ屬スルモノハ其豫算決議書

一 他人ノ所有地ニ植樹スルモノハ其所有者ノ承諾書又ハ所有者トノ契約書

第九條 前條ニ依リ許可ヲ得タルモノ其實地ノ植栽ヲ畢リタルトキハ終了後七日以内ニ第二号書
 式ノ願書ヲ縣知事ニ差出シ且同時ニ其植栽地ニ字地番反別植種本數植栽年月日及植栽者ノ氏名

ナ記シタル標柱ヲ建設スヘシ

第十條 補助出願地ハ植栽前及植栽後共ニ吏員ヲ派シテ之ヲ查察セシメ其植栽法植繼法及手入保
 護方法等ニ付テハ時々實地ニ於テ之ヲ指揮セシムルコトアルヘシ

第十一條 補助費下付ノ許可ヲ得タルモノ并補助金ノ下付ヲ受ケタルモノ左ノ事項ニ該當スルモ
 ハ其補助ヲ取消シ又ハ既ニ下付セル補助金ヲ還納セシムルコトアルヘシ

一 實地植付済ノ届出ヲ怠リタルモノ及指定ノ期限内ニ其植替植繼ノ業ヲ終ラサルモノ
 一 圖面及實地植付済届ニ記載ノ事項實地ト相違セルモノ

第十二條 補助ヲ得テ植樹シタルモノハ植栽後五ヶ年ハ其成育ノ狀況及植繼手入保護ノ實況ヲ具
 シ毎年十月末日マテニ之ヲ縣知事ニ届出ツヘシ

火災虫害其他異常ノ災厄ニ罹リタルトキハ前項ノ期限ニ拘ハラズ其都度之ヲ届出ツヘシ

附則

第十三條 本規程ニ依リ提出スル願書及届書ハ總テ町村役場郡市役所ヲ經由スヘシ

第十四條 從來ノ規則ニ依リ差出シタル補助願ハ本規程ニ依リ提出シタルモノト見做ス

第一号書式

造林獎勵補助費下附願

郡市	町村	字	番	面積	地種目	所有者	樹種本數	豫定植栽日	伐採年限
	大字								
	小字								

右ノ地從來無立木地〔又ハ荒廢ノ山〕ニ有之候處今般造林ノ目的ヲ以テ新ニ植樹仕度候ニ付明治三十三年縣令第四号ニ依リ御補助相成度別紙圖面及植樹手入保護方法書〔此外市町村及公共組合ノ事業ニ關スルモ若クハ地主ノ承諾書〕相添ヘ此段相願候也

年月日 縣知事宛
 年月日 市町村長 何ノ誰

備考
 一面積ノ欄ニハ台帳面ト實測ト反別ヲ別記スヘシ
 一樹種ノ欄ニハ何樹何本何樹何本ト列記シ若シ挿木ナルキハ其旨ヲモ記載スヘシ
 一春植ト秋植トハ本願ヲ各別ニスヘシ

植栽濟届

郡市	町字	村字	番	面積	地種目	所有者	植付濟樹種本數	植付月日	苗木代

右何月何日付テ以テ造林獎勵補助費下付御許可ノ分今般前記ノ通り植栽濟ニ付補助金御下渡相成

度此段御届仕候也

年月日 郡市町村 何ノ誰
 年月日 縣知事宛 市町村長 何ノ誰

○福岡縣訓令第一〇号 (明治三十三年二月二十三日)

郡役所 市役所

森林法第六條明治三十二年本縣令第二〇号森林法施行手續第一号ニ依リ森林開墾願ヲ提出スルモノアルトキハ左ノ事項調査書ヲ添ヘ之ヲ進達スヘシ該出願地ニシテ若シ森林法第八條列記ノ箇所ニ準スト認ムル場合ハ殊ニ詳細ニ其意見ヲ具申スヘシ
 一願書ニ記載ノ字地番反別地價ハ公簿ニ符合スルヤ否
 二土性(粘土壤土砂土又ハ礫層等)
 三林相(何樹何年生壹反歩凡何本)
 四傾斜(平均凡何度)
 五關係(開墾スル片ハ砂礫ヲ流下セシムルノ虞アリ又ハ云々)

漁業

○第九十二号 (明治十七年十二月十二日)

潜水器械使用取締規則左ノ通り相定メ來明治十八年一月一日ヨリ施行ス

潜水器械取締規則

- 第一條 潜水器械ヲ使用シ漁業セント欲スルモノハ關係漁村浦ノ承諾書並ニ該漁場ノ圖面ヲ添ヘ出願スヘシ
但營業者ト其村浦漁業者トノ間ニ制限ヲ設ケ又ハ收利配分等ノ約定ヲナスモノハ其寫ヲ添フヘシ
- 第二條 潜水器械ヲ所持スル他管ノモノト協同シ又ハ他管ノモノニシテ之ヲ使用セント欲スルモノハ總テ本則ヲ遵守スヘシ
- 第三條 營業期限ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ滿一ケ年トス
但シ滿期ニ至リ尙繼續セメント欲スルモノハ更ニ出願許可ヲ受クヘシ
- 第四條 營業者ハ左ノ制限ヲ遵守スヘシ
一 鮑貝ハ豎長四寸(曲尺)以內ノ稚貝ヲ捕獲スルヲ禁ス
一 瀬戸貝ハ豎長四寸(曲尺)以內ノ稚貝ヲ捕獲スルヲ禁ス
一 鮑貝分子ノ季節(毎年九月)中捕獲スルヲ禁ス
一 海鼠ハ豎長四寸(曲尺)以內ノ苗子ヲ捕獲スルヲ禁ス
一 同分子ノ季節(毎年六月)中捕獲スルヲ禁ス
- 第五條 沈没品搜索ノ爲メ潜水器械ヲ使用セント欲スルモノハ日數ヲ定メ關係漁村ノ承諾書及使用場ノ圖面ヲ添ヘ所轄郡區役所ヘ届出ツヘシ
但所有主詳カナヲサルモノハ本條ノ手續ヲ履ミ特ニ出願スヘシ

第六條 營業期限内ト雖ヒ水産蕃殖上妨害アリト見認ムルキハ其營業ヲ禁止スルコトアルヘシ
右布達候事

○第六十二號 (明治十八年七月十二日)

廿一年縣令第五
一號廿四年縣令第
一號廿七年縣令第
縣令第三號三十年
以テ第三號ヲ三
項第四項改正

千歲川 筑前國筑後國 漁場區域位置
第一項 筑前國三係ル

第一區

筑后國生葉郡山北村字三ッ園 ヨリ 筑后國竹野郡菅原村 片ノ瀬渡場迄
筑前國上座郡穗坂村字境谷 ヨリ 同 國御井郡西原村

第二區

筑后國竹野郡菅原村 片ノ瀬渡場ヨリ 筑後國御井郡梅滿村字綿打川字豆津分新 迄
同 國御井郡西原村 肥前國養父郡江口村土井外一ノ角六番荒子

第三區

筑後國御井郡梅滿村字綿打川字豆津分新 ヨリ 筑後國三藩郡久々原村字長松荒子 迄
肥前國養父郡江口村土井外一ノ角六番荒子上手 ヨリ 肥前國佐賀郡大宅間村字四番荒子

第二項

同 終年禁魚場位置

筑前國上座郡山田村惠蘇ノ宿山田堰ヨリ

筑后國生葉郡橘田村乞食江湖勿迄

(全) 國御井郡床島堰下鬼殺淵

全國三井郡大城村大字塚島乙吉荒子ヨリ

全國全郡全村大字塚島字東裏畑百六番荒子迄

全國三井郡節原村大字合川淵ノ上長荒子ヨリ

全國全郡全村大字小森野高野藥師木迄

肥前國佐賀郡德富村中島頭ヨリ

筑后國三井郡向島村若津湊上荒子迄

右五ヶ所終年一切漁撈ムルヲ禁ス

第三項

同 季節禁魚場位置

筑后國三井郡大堰村大字三川字「ギマン」ヨリ八幡川原刻下迄同國同郡金島村大字金嶋字米出荒子ヨリ新川瀬口迄

右二個所九月廿日ヨリ十月十日迄一切漁撈スルヲ禁ス

第四項

同 季節ヲ限リ禁止スル漁具漁法及其位置

筑後國三井郡鳥飼村以下全郡三又村間ニ於テ毎年十一月ヨリ翌年三月迄鯉抱漁業ヲ爲シ又ハ潜水器ヲ使用シテ漁獲ヲ爲スコトヲ禁ス

筑後國三井郡鳥飼村以下全郡三又村間ニ於テ毎年十一月ヨリ翌年三月迄鯉抱漁業ヲ爲シ又ハ潜水器ヲ使用シテ漁獲ヲ爲スコトヲ禁ス

第五項

同 場所ヲ限リ禁止スル漁業

筑后國御井郡三川村床島堰以下ニ於テ鵜漁スルヲ禁ス

第六項

同 一般公利ヲ障礙スルニ依リ禁止スル漁業

毎年筑後國三井郡久々原村字長松荒子以上ニ於テ手押網ヲ使用スルヲ禁ス

川流ヲ遮斷スル漁具(大綱(近年肥後網ト唱ルモノ)又ハ傷害ノ漁方(毒劑等)類ヲ以テ漁撈スルコトヲ禁ス

右布達候事

○縣令第三十五號 (明治十九年十一月十七日)

漁業組合準則並附則左ノ通相定ム

但明治十七年 十二月 廿六日 無号布達ヲ廢ス

漁業組合準則

第一條 漁業(水産ノ動植物ヲ併稱ス)及水産製造(乾鰯(鰯)ニ從事スルモノハ本則ニ依リ區畫ヲ定メ組合及聯合組合

ヲ設ケ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ受クベシ

第二條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 河海沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業及製造ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第二類 殊別ノ漁業及其製造(例ハハ抽鯨(鯨)介魚又種類ニ依リ特ニ縣廳ヨリ指示シ組合ヲナサザム

ルモノ)

廿一年縣令第六
五號及三十二年
縣令第二十六號ヲ
以テ附則第二條
中改正

但第一類ノ組合ニ對シ支障セル漁事ヲナスヲ得ズ

第三條 組合ハ營業上ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目的トスヘシ

第四條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 二 組合ノ目的
- 三 役員選舉法及其權限
- 四 會議ニ關スル規程
- 五 加入者及退去者ニ關スル規程
- 六 違約者處分ノ方法
- 七 費用ノ徵收及賦課法
- 八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル
- 九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事
- 十 漁場區域ニ關スル事

第五條 組合ニ於テハ總會、聯合組合ニ於テハ聯合總會ヲ設ケ第四條ニ關スル事項ヲ議定シ規約ヲ定ムヘシ其規約ヲ更正シ若クハ組合ヲ分合セントスルトキハ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 他管ニ渉ル組合若クハ聯合組合ノ規約ハ其所轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ但シ其規約ヲ更正シ若クハ組合ヲ分合セントスルトキモ亦本條ニ同シ

第七條 他管ニ渉ル組合若クハ聯合組合ニ於テハ便宜ノ地ニ事務所本部又ハ支部ヲ設クヘシ

附則

第一條 組合區畫ハ漁場ノ連帶若クハ江灣ノ景況ニ依リ之ヲ定ムヘシ

但時宜ニ依リ縣廳ニ於テ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第二條 聯合區畫ハ概テ左ノ如ク之ヲ定ムヘシ

但河川聯合區畫ハ流域ニ依リ之ヲ定ムヘシ

- 第一 聯合區 筑前國 豊前國門司市田
- 第二 聯合區 豊前國豊前郡東
- 第三 聯合區 筑后國沿海鄉村以東

第三條 組合ニ於テハ頭取一名取締若干名ヲ撰定スヘシ

但頭取ハ其住所姓名ヲ縣廳ニ届ケ出ヘシ

第四條 聯合組合ニ於テハ總頭取ヲ設クヘシ但各頭取便宜年番ヲ以テ之ヲ兼ルモ妨ケナシ

但シ總頭取ハ其住所姓名ヲ縣廳ニ届ケ出ツヘシ

第五條 總頭取ハ聯合組合内ニ係ル諸般ノ事件ヲ主擔シ且ツ聯合會ニ於テ議スヘキ事項ヲ取調フヘシ

第六條 頭取ハ其組合内漁業上ニ係ル諸般ノ事件ヲ主擔シ其監督ヲ爲シ且ツ組合名簿ヲ製シ増減ヲ加除シ又ハ組合ニ於テ議スヘキ事項ヲ取調フヘシ

第七條 取締ハ頭取ヲ輔ケ組合内ノ諸取締ヲナシ且ツ諸般ノ雜事ヲ取扱フモノトス

第八條 組合及聯合組合ハ定期會議臨時會ノ二種トス但時宜ニ依リ縣廳ヨリ會議ヲ開設セシメ又ハ諮問ヲ爲スコトアルヘシ

第九條 組合及聯合組合ハ會頭一名及會員若干名ヲ撰定スヘシ

但會頭會員ノ住所姓名ハ之ヲ縣廳ニ届出ツヘシ

第十條 會議ニ於テ議スヘキモノハ左ノ項目ニ限ルモノトス

- 一 水族ノ類ノ稚兒ヲ虐捕シ卵鱒ヲ傷害シ又ハ公利ヲ障礙スル漁具漁法ニ關スル事
- 二 新規ナル漁具漁法ヲ使用スルニ當リ一般ノ利害ニ關スル事
- 三 水族ノ産卵季節ヲ圖リ休漁又ハ保護スル事
- 四 水族ノ産卵若クハ群集スル場所ヲ見立テ蕃殖場ヲ設クル事
但禁漁場ノ設置ヲ必要トスルトキハ縣廳ニ上申スルヲ得
- 五 水族ノ棲息スル藻草ヲ蕃滋セシムル方法ニ關スル事
- 六 毎年収額ヲ統計シ水産ノ盛衰増減スル理由ヲ取調フル事
- 七 地形地味ヲ審査シ水生動物ヲ移植シ又ハ固有物類ノ蕃殖ニ關スル事
- 八 河海岸樹木ヲ植栽シ繁茂ノ方法ヲ圖リ水族ヲ保護スル事
- 九 捕採物魚虫介類ノ製造ヲ改良シ販路ヲ擴張スル事
- 十 貯蓄方法ヲ設ケ組合營業ノ鞏固ヲ圖ル事
- 十一 漁場ノ紛糾等ニ關スル事
- 十二 但官廳ノ所分ニ係ルモノハ此ノ限リニ非ス

第三條 組合及聯合區内ニ係ル費用ノ徵收及賦課法ニ關スル事

第十一條 前各項ノ外水産又ハ漁業上ニ關シ重要ナル事件ト認ムルトキハ會議ノ意見ヲ取り會頭ノ名ヲ以テ縣廳又ハ郡區役所ニ建議スルコトヲ得

第十二條 縣官郡區長郡區書記戸長及勸業委員ハ會議ニ臨席シ意見ヲ陳述スルコトアルヘシ

廿六年縣令第二
七号廿九年縣令
第五号卅一年縣令
第四号卅三年縣令
第三号卅五年縣令
第二号卅七年縣令
第一号卅九年縣令
第三号卅九年縣令
以テ改正

但シ決議ノ數ニ入ルヲ得ズ

○縣令第七十号 (明治二十年五月九日)

宗像郡沿海町村

板屋具漁業及其製造ニ從事セント欲スルモノハ明治十九年縣令第三十五号ニ依リ組合ヲ設ケ規約ヲ結ヒ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

○縣令第六十六号 (明治二十五年九月二十四日)

明治十八年(三月)第廿号布達矢部川星野川水産蕃殖保護法左ノ通改定ス

第一項 矢部川星野川ニ漁區ヲ設クル左ノ如シ

漁區名稱	區	域
第一區	八女郡矢部村大字矢部北矢部ニ係ル字宮野ヨリ全郡大淵村マテ	
第二區	八女郡木屋村ヨリ全郡串毛村大字土窪豐岡村大字田本ニ係ル字込野堰迄	
第三區	八女郡星野村柱原合瀨川吐合ヨリ全郡川崎村大字山内字山ノ井堰及八重谷川川口ヨリ上流横山村大字落合落合堰マテ	

漁區	位	置	季	節
第一區	八女郡大淵村字砂原淵			
第二區	八女郡木屋村字長淵			
第三區	八女郡星野村長尾字野添淵全郡川崎村大字長野字サヤノカミ淵及全郡横山村大字落合前田堰ヨリ上流百五十間			
第四區	八女郡豐岡村大字湯邊田光友村大字田形ニ係ル字釜屋淵ヨリ惣川内堰マテ			
第五區	八女郡古川村大字北長田西境淵ヨリ全郡下妻村大字尾島字東古賀原淵マテ			
第二項 矢部川星野川ニ禁魚場ヲ設クル左ノ如シ				
第三項 矢部川ニ季節禁魚場ヲ設クル左ノ如シ				

漁區	位	置	季	節
第三區	八重谷川ヨリ上流二百間		每年四月一日ヨリ六月三十日迄一切漁撈ヲ禁ス	
第五區	山門郡本郷村大字本郷字三本杉列八女郡下妻村大字津島ヨリ山門郡本郷村大字本郷ニ係ル字下道正淵		每年八月一日ヨリ十月二十日迄一切漁撈ヲ禁ス	
第四項 矢部川星野川ニ禁止スル漁具漁法及其季節左ノ如シ				
區	域	季	節	禁漁種別
山門郡本郷村大字本郷字松原堰下ヨリ全郡河沿村大字高柳字一本杉列マテ		每年二月一日ヨリ五月十日迄		稚鮎成長ヲ妨害スル漁業
山門郡河沿村大字高柳一本杉列ヨリ全郡有明村大字中島字中島渡場迄		每年二月一日ヨリ五月十日迄		網眼方五歩以下(手押アンコーノ類)
山門郡柳川上町外町ニ係ル出ノ橋ヨリ全郡沖端村大字矢留村孫六渡場迄		每年二月一日ヨリ七月二十日迄		炬火漁
上妻郡三河村大字矢原水上村大字廣瀬ニ係ル筋違瀬以下		每年二月一日ヨリ十一月二十日迄		炬火漁
上妻郡三河村大字矢原水上村大字廣瀬ニ係ル筋違瀬以上		每年二月一日ヨリ十一月二十日迄		炬火漁
本川一般並ニ上妻郡筋違瀬以上分派ノ溝渠中本川ニ落合フ惡水吐		每年一月一日ヨリ十二月末日迄		築漁釜漁竿追ダブ漁毒劑使用漁セガエシ漁メクメ漁

農務 漁業

第五項 矢部川星野川ニ於テ漁撈ノ爲メ飼養スル鵜數ノ制限ヲ設クル左ノ如シ

六十四

漁 區	鵜 數
第一區	六羽以內
第二區	廿羽以內
第三區	六羽以內
第四區	三拾羽以內
第五區	三拾羽以內

第六項 矢部川星野川ニ於テ毎年二月一日ヨリ五月十日迄水車堰ヲ築クトキハ廣サ二間深サ三尺ヲ開キ魚路ヲ設クルニアラサレハ之ヲ築造スルコトヲ得ス

○縣令第三十八号 (明治二十六年九月十五日)

明治十九年(十一月)縣令第三十号筑後國邊春川飯江川水産蕃殖保護法左ノ通改定ス

第一條 飯江川ニ禁漁場ヲ設クル左ノ如シ

一 三池郡飯江村字梅ヶ淵上ノ渡瀬ヨリ梅ヶ淵下ノ堰迄

二 三池郡飯江村大井手ヨリ山門郡三ツ刺三池郡飯江村字クヲノウシロ瀬迄

第二條 飯江川ニ禁止スル漁具漁法及其季節左ノ如シ

一 毎年二月一日ヨリ五月十日迄稚鮎成育保護ノ爲メ山門郡川沿村字古賀橋ヨリ三池郡江浦村

字二俣迄細目ノ網(網目方五歩以下但手押)ヲ以テ漁撈スルコト

二 毎年本川一般鵜漁及蕃殖ヲ妨害スル漁具漁法(竿道ヲ濶寄)ヲ以テ漁撈スルコト

○告示第四十五号 (明治二十七年五月十五日)

長崎縣ニ於テ漁業ニ關スル縣令左記ノ通リ發布セシ旨該縣ヨリ通知アリタリ

長崎縣令第九号 (明治廿七年二月廿八日)

漁場採藻場取締規則左ノ通リ相定ム

漁場採藻場取締規則

第一條 漁業採藻ノ爲メ區畫ヲ定メテ水面ヲ使用セントスルモノハ此規則ニ從ヒ許可ヲ受クヘシ

第二條 區畫使用ハ自ラ其業ヲ營ミ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノニ限リ出願スルコトヲ得

但シ他ノ漁業ニ妨害ヲ加ヘ又ハ入會稼ノ慣行アルモノハ此ノ限リニ在ラス

一 鯨 鰻 鮪 鰯 鮑 真珠貝、揚卷貝

二 養魚場 試育場

三 スクイ シメキ 大敷等定設ノモノ

四 採藻場

- 第三條 前條ノ外ト雖區畫ヲ使用スルニアラサレハ漁業ヲ爲シ能ハサルトキ又ハ從前區畫使用ノ許可ヲ得タル場所ハ特ニ許可スルコトアルヘシ
- 第四條 區畫使用年限ハ鯨ハ十ヶ年以内其他ノ漁場ニシテ新ニ發見ノ場所ハ七ヶ年以内舊來ノ場所及採藻場ハ五ヶ年以内トス
- 第五條 區畫ハ他人ニ貸渡スコトヲ許サズ
- 第六條 區畫使用人ハ漁業採藻ノ季節外ニ於テハ他ノ業ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第七條 從來慣行アルモノ、外一村又ハ一部落ノ地先海面若クハ河川ノ一流ヲ一村一部落又ハ一人ノ漁場採藻場トシテ占有スルコトヲ得ス
- 第八條 區畫ヲ讓受渡セントスルトキハ双方連署出願スヘシ
- 第九條 家督相續又ハ遺跡相續ノ爲メ區畫使用人ノ名前換ヲ要スルトキハ親族二名以上連署出願スヘシ
- 第十條 區畫使用年限中廢業セントスルモノハ理由ヲ詳記シ届出ツヘシ
但スクイシメキ等ノ漁場ハ原形ニ復スヘシ
- 第十一條 年滿繼續使用ノ許可ヲ得ントスルモノハ滿期前一ヶ月以内ニ出願スヘシ
- 第十二條 左ノ各項ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ無償ニシテ區畫使用ヲ引揚ルコトアルベシ
 - 一 官ニ於テ入用ノトキ
 - 二 官ニ於テ他ノ漁業ニ妨害アリト認ムルトキ又ハ公衆ノ妨害アリト認ムルトキ
 - 三 第五條ヲ犯シタルトキ

四 區畫使用ノ許可ヲ得其業ヲ營マサルトキ
第十三條 第一條ニ依リ出願セントスルトキハ左ノ書式ニ據ルヘシ
書式第一号

何魚網代區畫使用願

何郡何町村何郷又ハ何名字何々
一何魚網代(其種類及大數ヲナスモ)壹ヶ所堅何間ノハ其旨ヲ詳記スヘシ
何坪漁業(採藻)期節(春夏又)(或ハ自何月)(ハ秋冬)(至何月)
使用年限自何年何月 滿何ヶ年
右ハ新ニ發見(又ハ舊何々網代ニシテ當時廢業ノ場所)(又ハ一ヶ所ノ網代ニシテ期節ヲ分チテ)ニ付營業仕度候間別紙畫圖面ノ箇所前記ノ年限中使用致度候間近傍類業者及漁業組合(頭取又ハ取締)ノ承諾書ヲ屬シ此段奉願候也

年月日
縣知事宛 〔對馬島廳下〕
何 某 印
何郡市町村番戶族籍(寄留者ハ本籍ヲモ併記スヘシ)

(圖面へ記入スベキ事件)
對馬島廳下

書式第二号
場所ノ模樣暨横ノ間數及坪數町村郷字地方ヨリノ距離近傍網代ノ位置並ニ距離(地方ヨリノ距離ハ成ルヘク不動物ヲ以テ基點トスルヲ要ス)

承諾書

郡村、、、、郡(市)町番戶

一前全上、
全上、
全上、

願人 何 某

右ハ此般新規發見漁業(或ハ養魚試育又ハ採藻)ノ爲メ區畫使用出願候處該漁場(或ハ養魚場又ハ採藻場)ニ於テハ接近漁場(又ハ採藻場)ノ障害無之ハ勿論入會稼ノ舊慣無之ニ付類業者ニ於テモ本願ニ對シ聊カ故障無御座候依テ承諾書差出候也

郡市町村 郷名接近類業或ハ類業者 惣代

年月日

何 某印

全上漁業組合頭取又ハ取締

何 某印

何町村長或ハ月長

何 某 宛

附則

第十四條 本令ハ本年三月一日ヨリ施行ス

第十五條 明治二十二年二月縣令第十四号ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

長崎縣令第二十八号 (明治廿七年四月廿三日)

明治廿三年(七月)縣令第六十七号左ノ通り改正ス

本縣沿海漁業組合設置ノ漁場ニ於テ漁業水産ノ動植物 採藻ヲ併稱スヲ營マントスルモノハ縣ノ内外人ヲ問ハス總テ其地漁業組合ニ加入シ規約ニ遵フヘシ

但シ遊樂若クハ自用ノ爲メ魚介藻ヲ採取スルモノハ其地漁業組合ニ加入スルヲ要セスト雖規約ニ定メタル制限禁止ノ事項ハ之ヲ遵守スヘシ

本令ニ違フモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○告示第四六号 (明治二十七年五月十八日)

筑後沿海三潞郡漁業組合規約更正ノ件ヲ認可シ其組合外ノ者ニ關スル條項左ノ如シ
筑後沿海三潞郡漁業組合規約拔萃

組合地區 青木村 三又村 大川町 川口村 久門田村
濱武村 大野島村

第六條 本組合地區内ニ居住シ筑後沿海ニ於テ漁撈スルモノハ左ノ雛形ノ証札ヲ請テ必ス之ヲ携佩スヘシ

但遊樂ノ爲メニスルモノハ此限リニアラズ

本條ヲ違犯スルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ違犯金ニ處ス

第八條 本組合地區外ニ居住シ筑後沿海漁場ニ於テ漁撈セント欲シ入漁料金壹圓ヲ出ストキハ其年限リ之ヲ許シ本組合ノ証札ヲ附與ス但他郡區ノモノハ此限ニアラズ

第十一條 本組合ノ証札又ハ他組合從來入漁ノ慣行アル組合ヲ云フノ証札ヲ受ケサルモノニシテ筑後沿海漁場ヲ侵ストキハ其漁具及漁獲物ヲ預ルモノトス

但シ償金トシテ金拾錢ヲ出ストキハ其漁具ヲ返戻スト雖モ其漁獲物ハ糶賣シテ本組合ノ經費ニ充ルモノトス

○縣令第三三三號 (明治二十七年六月六日)

自今捕鯨業ヲ爲サント欲スルモノハ左記事項ノ明細書ヲ添へ所轄郡市役所ヲ經テ當廳へ出願許可ヲ受クベシ

- 一 魚場圖(陸上ヨリノ距離並方位附記)
- 一 漁具並漁法
- 一 漁船縱橫間數積量及構造ノ大略
- 一 乘組人員
- 一 創業ニ要スル諸費並ニ資本額

○告示第五七號 (明治二十七年七月五日)

筑豐漁業組合規約更正ノ件ヲ認可ス其組合外ノ者ニ關スル條項左ノ如シ

筑豐漁業組合規約摘要
組合地區 (從前認可ノ分)

- 第一組
- 門司浦 大里浦 長濱浦 平松浦 藍島
 - 馬島

第二組

- 戸畑浦 若松浦 脇ノ浦 脇田浦 岩屋浦
- 柏原浦 山家浦 芦屋浦 波津浦

第三組

- 鐘崎浦 地ノ島浦 大島浦 神湊浦 勝浦濱
- 津屋崎浦 福間浦 新宮浦 奈多浦 相ノ島

第四組

- 志賀島浦 弘浦 箱崎浦 伊崎浦 姪ノ濱浦
- 濱崎浦 今津浦 唐泊浦 西ノ浦 野北浦

第五組

- 小呂島浦 玄海浦 殘島 博多大濱 舊船手組土手町
- 芥屋浦 姫島 岐志浦 新町浦 久我浦

第六組

- 船越浦 加布里浦 片山浦 深江浦 福井浦
- 吉井浦 鹿家浦

第四條 本組合地區内ニ居住シ漁業及製造ヲ營ムモノハ專業兼業トモ總テ組合ニ加入スヘシ若シ加入セサルモノハ漁業者ハ其漁具製造者ハ其器具ヲ預リ加入ノ手續ヲ了ル迄留置クモノトス

第六條 本組合漁場内ニ於テハ從來慣行ナキ漁業者ハ組合ノ承諾ヲ受ケスシテ濫ニ漁撈スベカラズ若シ之ヲ犯スモノハ其漁具及漁獲物ヲ預リ相當ノ償金ヲ徵集セタル後ニアラザレバ之ヲ返付セス其償金ハ五拾錢以上貳拾圓以下トシ捕獲物代價ノ凡二倍以上五倍以下ノ範圍ヲ標準トス

但捕獲物ハ組合ニ於テ賣却シ其代價ヲ償金ノ内ニ充ツルコトアルヘシ

○告示第八四号 (明治二十八年七月十九日)

佐賀縣ニ於テハ季節禁漁之義ニ付別紙之通縣令發布ノ旨通知アリタリ

佐賀縣令第八十一号 (廿七年十一月廿四日)

本縣下佐賀郡小城郡杵島郡藤津郡沿海ニ於テ左ニ定メタル期限間煙貝、牡蠣、タイラギ、ミロク、鳥貝、ヲ採捕スルコトヲ禁ス犯スモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但明治十八年甲第九号揚養員採捕禁止期限ノ件廢止ス

採捕禁止期限

煙貝 毎年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄

牡蠣 毎年三月十五日ヨリ六月三十日迄

タイラギ 毎年五月一日ヨリ九月三十日迄

ミロク 同上

鳥貝 毎年五月一日ヨリ十月三十一日迄

佐賀縣令第四十三号 (明治廿八年七月十日)

明治廿七年(十一月)佐賀縣令第八十一号中煙貝採捕禁止期限ニ左ノ但書ヲ追加ス

但シ其年生育ノ分ハ翌年八月迄

廿九年三月十七日
第九條及第十七條
第四號同年縣令
第一號同年縣令
第六號同年縣令
第三號同年縣令
第二號同年縣令
第一號同年縣令
第十條中改正
第十條中改正
第十條中改正

○縣令第五二號 (明治二十八年八月三十一日)

眞珠貝生育保護ノ爲メ左記ノ箇所ニ於テ貝藻類ヲ採取スルコトヲ禁ス犯スルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一志摩郡今津村字洲ノ崎ヨリ字辰崩レニ到ル沿海並ニ全村寶島沿海

○縣令第二五号 (明治二十九年三月七日)

漁業取締規則左ノ通り相定ム

但シ明治十七年六月三日布達全廿四年縣令第三十九号並ニ全廿八年縣令第四十号ハ廢止ス

漁業取締規則

第一條 此規則ニ於テ漁業ト稱スルハ水産動植物ノ採捕ヲ爲スヲ云ヒ又組合ト稱スルハ漁業組合

第二條 準則ニ依リ規約ヲ設ケ農商務省若クハ縣廳ノ許可ヲ得テ施行スルモノヲ云フ

第三條 漁場區域ハ特定ノ外總テ地方ノ慣行ニ依ルヘシ

第四條 遊樂若クハ自用ノ爲メ沿海ニ於テ使用スヘキ捕魚具ハ竿釣及投網ニ限リ又漁業組合設置

ノ河川ニ於テハ河岸ヨリ竿釣漁ヲ爲スニ限リ其他ノ漁具ヲ使用スルヲ得ス

第五條 組合設置ノ漁場ニ於テ漁業ヲナスモノハ第六條ニ定メタルモノ、外其地組合ニ加入シ經

費ヲ負担スヘシ

第六條 組合設置ノ漁場ニ於テ遊樂若クハ自用ノ爲メ漁業ヲ爲スモノ又ハ從來ノ慣行ニ依リ入會

漁ヲ爲スモノハ其地組合規約ニ定メタル制限禁止ノ事項ヲ遵守スヘシ

第七條 組合經費ノ收支豫算ハ組合會ノ決議ニヨリ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ又其決算ハ組合會ノ承認ヲ經テ縣廳ニ報告スベシ

第八條 羽瀨漁及其他組合ニ慣行ナキ漁具漁法ヲ用ヒテ漁業ヲ爲サントスルモノハ其方法ヲ明記シ當該組合頭取ヲ經テ出願許可ヲ受クヘシ但組合頭取ハ願書ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ意見書ヲ附シ差出スベシ

第九條 前條ニ依リ許可シタル漁具漁法ト雖モ公益上有害ト認めルルキハ許可ノ指令ヲ取消スコトアルヘシ

第十條 左ノ事項ハ之ヲ禁止ス

- 一 帆引網(ウタセ)漁
- 二 筑後國沿海ニ於テ發生ヨリ三年目以下ノ煙貝ヲ三年目ニ相當スル年ノ三月三十一日迄ノ間ニ採取スルコト
- 三 筑後國沿海ニ於テ發生ヨリ三年目以上ノ煙貝ヲ毎年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ間ニ採取スルコト
- 四 毎年五月一日ヨリ九月三十日ニ到ル間筑後國沿海ニ於テ王珪貝及みろく貝ヲ採取スル事
- 五 毎年五月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル間筑後國沿海ニ於テ鳥貝ヲ採取スル事
- 六 魚族ノ蕃殖ニ有害ナル物質(椒皮、山茶花、油粕、石灰、白灰、柿澁、煙草莖其他ノ毒物)ヲ以テ捕魚スル事
- 七 瀨羽瀨漁
- 八 毎年一月十五日ヨリ五月三十一日ニ至ル間那珂川尻渡場ヨリ筑紫郡岩戸村大字山田井手ニ

- 九 到ル那珂川本流及派流博多川ニ於テ竿釣漁ヲ除ク他ノ漁事ヲ爲ス又毎年九月一日ヨリ十月十五日ニ至ル間全郡住吉村大字裝島橋ヨリ上流三百間ニ達スル間ニ於テ漁事ヲ爲ス事
- 十 毎年一月十五日ヨリ六月三十日ニ至ル間筑紫郡岩戸村山田井手ヨリ全郡南畑村大字一ノ瀬釣垂橋ニ到ル那珂川本流ニ於テ竿釣漁ヲ除ク他ノ漁事ヲ爲ス事
- 十一 明治三十三年七月一日ヨリ以後筑紫郡南畑村大字一ノ瀬釣垂橋ヨリ水源ニ到ル那珂川本流ニ於テ竿釣漁ヲ除ク漁事ヲナス事
- 十二 毎年二月十五日ヨリ六月三十日ニ至ル間室見川及其支流八丁川ニ於テ江切漁白魚築及竿釣漁ヲ除ク他ノ漁事ヲ爲ス事
- 十三 毎年二月十五日ヨリ十月三十一日ニ至ル間早良郡入部村大字東入部大井手橋ヨリ椿橋ニ至ル室見川流域及其支流八丁川口ヨリ上流熊崎井手ニ至ル間ニ於テ漁事ヲ爲ス事
- 十四 左記ノ箇所ニ於テ漁事ヲ爲ス事
那珂川本流中筑紫郡安徳村大字仲田佐井手ヨリ上流三百五十間
室見川本流中早良郡原村大字小田部濱井手二百間下ヨリ全郡壹岐村大字橋本乙井手ニ至ル間
- 十五 左記ノ河川ニ於テ白魚漁及江切漁ヲ除ク外魚類ノ通路ヲ遮斷スル立網築又ハ笠ヲ使用スル事
那珂川本流及派流博多川
室見川本流及支流八丁川
室見川本流及支流八丁川ニ於テ鵜漁ヲ爲ス事

去 每年一月十五日ヨリ六月三十日ニ至ル間那珂川室見川及其支派流ニ於テ廣サ二間深サ二尺以上ノ魚路ヲ開カスシテ水車堰又ハ白魚漁堰ヲ築造スルヲ

第十一條 第四條第五條第六條第十條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○告示第八四號 (明治二十九年六月四日)

本月四日當廳ニ於テ認可ヲ與ヘタル矢部川星野川漁業組合申合規約修正中其制限禁止ノ條項左ノ如シ

第廿八條 本川筋漁法及季節制限ヲ設クル左ノ如シ

一 本組合員外ノ者ニハ網、鵜使ヒ、鮎掛ケ釣、桶ヅケ、鰻籠、舟フセ漁ヲナスコトヲ拒絕スヘシ若青セサルキハ漁具ヲ預リ其筋ヘ届出處分ヲ乞フモノトス

○縣令第一二號 (明治三十年三月五日)

三十三年縣令第一八号ヲ以テ條中改正削除

漁業獎勵補助費下附規程左之通相定メ四月一日ヨリ施行ス

漁業獎勵補助費下附規程

第一條 本規程ハ縣下水産業ノ振起發達ヲ圖ルヲ以テ目的トスルニ依リ他府縣人ニシテ管内ヘ寄留シ又ハ本縣人ニシテ他管内ニ寄留セルモノニ向テハ之ヲ適用セズ

第二條 漁法製造法又ハ養殖法傳習ノ爲メ組合若クハ一町村浦以上ノ團體ニ於テ他府縣ニ實業者ヲ派遣スルトキハ路程ノ遠近及派遣時限ノ長短ニ依リ拾圓以上五拾圓以下ノ補助金ヲ下附ス

第三條 台灣朝鮮若クハ西下利亞地方ニ出漁スルモノニハ其漁船、漁具、漁法、乘組人員及就漁期間ノ長短費用金額等ニ依リ船一隻(船及乘組人)若クハ漁業團體一組ニ對シ五拾圓以上貳百圓以下ノ割合ヲ以テ補助金ヲ下附ス

前項出漁ノ目的ニ依リ幅九尺以上ノ釣漁船ヲ新調シタルモノニハ其造船費ニ對シ三割以下ノ補助金ヲ下附ス

第四條 遠洋出漁者ニ於テ斯業ノ改善發達ヲ圖ルタメ本廳ノ認可ヲ得テ出漁組合ヲ設クルトキハ經費ノ多少ニ應シ相當ノ補助金ヲ下附ス

第五條 第二條ノ補助金ハ參拾圓以上ノ實費ヲ要スルモノニアラサレハ下附セズ

第六條 補助費下附ノ標準ハ前條ノ如ク定ムト雖モ時宜ニ依リ増減スルコトアルヘシ

第七條 組合又ハ一町村浦以上ノ團體ヨリ補助金ノ下附ヲ請求シ豫定ノ數ニ超過スルトキハ其請求ノ前後ト其漁業法ノ設計ニ依リ之ヲ許否スルコトアルヘシ

第八條 第三條ノ補助費下附ヲ受ケントスルモノハ目的及ヒ費用見積書ヲ添ヘ郡市役所ヲ經由シ豫メ出願スヘシ

前項出願ヲナシタルモノハ事業終局ノ後其成績及費用精算書ヲ添ヘ郡市役所ヲ經テ届出ツヘシ此届出ヲ爲シタル後ニアラサレハ補助金ヲ下附セズ

第九條 第三條ニ依リ補助金ヲ下附ヲ受ケントスルモノハ其漁船、漁具、漁法、乘組人員及就漁期、費用等ニ係ル設計書並ニ造船費豫算及船ノ略圖ヲ添ヘ郡市役所ヲ經テ豫メ出願スヘシ

前項出願ヲナシタルモノハ事業終局ノ後就漁地名捕魚、種類、漁獲高及其賣揚金高、漁業日誌ノ大要、收支ノ精算並ニ造船費等詳細ナル成績書ヲ添ヘ郡市役所ヲ經テ届出ツヘシ

此届出テナシタル後ニアラサレハ補助金ヲ下附セス

第十條 郡市役所ニ於テ第八條第九條ノ願書及届出テ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第十一條 本縣廳ニ於テ第九條ノ出願アルトキハ其設計ノ適否及漁船、漁具、乗組人等検査ノ上許否スヘシ

○告示第一六号 (明治三十一年一月二十九日)

三十二年告示第
二七八号ヲ以テ
第五條中改正

本月廿九日當廳ニ於テ認可ヲ與ヘタル有明海漁業組合規約中制限禁止ニ係ル條項左ノ如シ

第二條 本組合ハ筑後沿海各漁業組合ヲ以テ組織シ有明海漁業組合ト稱ス

第三條 本組合ノ規約ヲ施行スヘキ漁場區域ハ左ノ如シ
福岡縣筑後國筑後川流末西端ヨリ佐賀縣藤津郡竹崎觀音堂ニ見通ス視線以東及熊本縣ニ關スル境界ハ明治二十三年八月廿八日付福岡熊本兩縣往來漁業ニ係ル特約書ニヨル

但シ河川ニ係ル區域ハ舊來ノ慣行ニヨル

第四條 組合員外ノモノニシテ第三條ニ定メタル漁場區域内ニ於テ舊來ノ慣行ニ依リ漁業ヲ爲スモノハ本組合ノ入魚証票ヲ携帶スヘキモノトス

第五條 水産ノ保護繁殖ヲ圖ル爲メ左ノ禁止事項ヲ定ム

一 帆引網(ウツセ)漁

二 毎年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄鯉貝ヲ採取スル事
但其年生育ノ分ハ翌々年三月三十一日迄

三 毎年三月十五日ヨリ六月三十日迄牡蠣ヲ採取スル事

四 毎年五月一日ヨリ九月三十日迄玉珧貝及ミロク貝ヲ採取スル事

五 毎年五月一日ヨリ十月三十一日迄烏貝ヲ採取スル事

六 瀉羽瀬漁

第十七條 第四條ノ証票ヲ携帶セシテ漁業ヲ爲シタルモノアル時ハ其筋ニ告發シ相當ノ處分ヲ請フモノトス

但犯則者取押ノ際証據湮滅ノ慮アル場合ハ其漁具及漁獲物ヲ預リ置クコトアルヘシ

第十八條 第五條ノ各項ニ違背シタルモノハ違約金トシテ金貳圓ヲ徵收シ其犯則ニ係ルモノハ尙其筋ニ告發ノ手續ヲ爲スモノトス

第二十條 第四條ノ証票ヲ受ケントスルモノハ本組合ニ申出テ手数料トシテ毎年左ノ漁具種類表ニ仍リ第一類ハ金參圓第二類ハ金貳圓第三類ハ金壹圓ヲ差出スベキモノトス
但シ特約アルモノハ此限リニアラス

漁具種類表

第一類	第二類	第三類
大網類	投網	蜘蛛手網
接康網	手操網	諸具採漁一切
立切網	釣繩漁一切	鰻搔

カ シ 網 類	ケ ン シ キ 網	鉾 魚
地 引 網	モ ケ 接 康 網	小 網
	組 引 網	ワ ラ ス ボ 搔
	鱧 カ シ 網	
	手 押 網	

但シ本文明記以外ノ漁具ハ類似漁具ニ準スヘキモノトス
第二十一條 本組合ハ前條ノ申出ニ依リ舊來入漁ノ慣行アルモノニ限り左ノ証票ヲ交付スベシ

三寸

何縣何郡何町大字何々
何 某
右明治何年度中組合
場ニ於テ第何類入漁
者タルコトヲ証ス
明治何年何月何日
組 合 名

裏 面
組 合 焼 印

○告示第一九九号

(明治三十一年九月六日)

本月六日認可ヲ與ヘタル室見川漁業組合規約中組合員外ノモノニ關スル條項左ノ如シ

室見川漁業組合規約摘要

- 第一條 本組合ハ明治十九年縣令第三十五号漁業組合準則ニ基キ室見川八丁川漁業者ヲ以テ組織シ其筋ノ認可ヲ受ケ施行スルモノトス
- 第二條 本組合ハ室見川漁業組合ト稱シ事務所ヲ早良郡西新町ニ設置ス
- 第三條 本組合漁業場ハ室見川及支流八丁川全流ヲ以テ區域トス
- 第五條 本漁業場ニ於テ左記各項ノ漁業ヲナスヘカラス
 一 椒皮、山茶花、油粕、石灰、白灰、柿澁、煙草莖、マイナマイト、其他魚族ノ蕃殖ニ有害ナル毒物
 一 ヒフリ打
 一 潮替
 一 堤防橋梁堰堤ヘ妨害アル漁業
- 第二十四條 本組合ニ加入セントスルモノハ同業者ノ保証人ヲ定メ連署ノ上最寄取締人ヲ經テ事務所ヘ届出ツルモノトス該保証人ハ違約金等ヲ辨償スルノ責ニ任ス

○福岡縣告示第一五七号

(明治三十二年八月四日)

明治三十二年七月十七日大分縣ニ於テ縣令第三十一号ヲ以テ漁業取締規則ヲ發布セリ其摘要左ノ

如シ

大分縣漁業取締規則摘要

- 第十四條 漁業組合設置ノ地區ニ居住スル漁業者ハ其組合ニ加入スヘシ特約又ハ慣行ニ依リ入漁スル者若クハ遊樂又ハ自用ノ爲メ水産動植物ノ採捕ヲ爲ス者ハ其地組合規約ニ定メタル漁具漁法及期節ニ關スル制限停止ノ條項ヲ遵守スヘシ
- 第十六條 鰯刺網ハ海岸ヨリ三海里以内ノ海面ニ於テ使用スヘカラス
- 第十七條 左ニ掲クルモノハ每種定ムル所ノ期間使用スルヲ得ス
 - 一 鰯刺網ハ毎年九月一日ヨリ十二月三十一日迄
 - 二 鯛縛網ハ毎年八月一日ヨリ翌年二月末日迄
 - 三 鵜漁ハ毎年六月一日ヨリ十一月三十日迄
- 第十八條 左ニ掲クルモノハ每種定ムル所ノ期間ニ採捕スルヲ得ス
 - 一 鮑毎年十月一日ヨリ翌年一月三十一日迄
 - 二 海鼠毎年四月一日ヨリ五月三十一日迄
 - 三 兒鮎ハ毎年一月一日ヨリ四月三十日迄
- 第十九條 左ニ掲クルモノハ採捕スルヲ得ス
 - 一 鮑長三寸未滿
 - 二 海鼠長五寸未滿
 - 三 鰻長五寸未滿

○福岡縣告示第一七六号 (明治三十二年八月三十日)

本年七月四日付ヲ以テ認可ヲ與ヘタル田ノ浦漁業組合規約中組合員外ノモノニ關スル條項左ノ如シ

田野浦漁業組合規約摘要

- 第一條 本組合ハ田ノ浦漁業組合ト稱シ事務所ヲ福岡縣門司市大字田ノ浦第五百廿五番地ニ置ク
- 第二條 本組合ハ門司市大字田ノ浦居住漁業者及製造者ヲ以テ組織シ縣廳ノ認可ヲ得テ設置スルモノトス
- 第四條 從來使用スル漁具漁法ト雖モ水産保護上又ハ公益ニ障害アルモノハ組合ノ決議ニ依リ縣廳ノ認可ヲ經テ止業セシムヘシ此場合ニ臨ミ何等ノ苦情アルモ其執行ヲ拒ムヲ得サルモノトス
- 第五條 組合内製造者ト雖モ有害漁具ヲ使用捕獲セシ海老ヲ製造シ又ハ干晒センガ爲本組合海面網代等ノ干潟ヲ使用スルヲ得ズ
- 第十九條 本組合ニ加入セント欲スルモノハ組合長ニ申込ムヘシ
 - 組合長ニシテ相當者ト認ムルモ加入セシムヘシ但加入者一人ニ付金拾圓以下ヲ納メシムルモノトシ該金ハ湊テ本組合ノ經費ニ繰込ムモノトス
- 第二十三條 本組合地區外ノモノト雖モ組合長ノ承諾ヲ經テ入漁セシムルヲ得
 - 但人漁料ハ組合會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム
- 第二十五條 舊來ノ慣例ニ依リ鰯及イナノ養殖ヲ圖ル爲毎年冬期(舊十一月ヨリ翌二月末日マテ)漁業ヲ停止ス
 - 但時宜ニ依リ組合會ノ決議ヲ以テ漁業ヲ爲サシムルヲモアルヘシ

三十三号告示第
正九一以テ改

○福岡縣告示第一七七号 (明治三十二年九月一日)
本年七月七日付ヲ以テ農商務大臣ノ認可ヲ與ヘシタル豊海漁業組合規約中組合員外ノモノニ關
スル條項左ノ如シ

但該規約ハ九月一日ヨリ實施シ豊前沿海第一第二兩漁業組合規約ハ同日ヨリ消滅ス
豊海漁業組合規約摘要

第一條 本組合ハ明治十九年農商務省令第七號漁業組合準則ニ基キ大分縣西國東郡岬村字岬以西
福岡縣企救郡東郷村字部岬以東漁業者ヲ以テ組織ス此規約ニ於テ漁業者ト稱スルハ魚介苔々藻
等凡テ海産動物ノ捕獲ヲ營業トスル者ヲ云フ

第二條 本組合ハ豊海漁業組合ト稱シ本部事務所ハ大分縣下毛郡中津町ニ設置ス

第三條 本組合ハ左ノ五支部ヲ設ケ支部長所在ノ地ニ其事務所ヲ置ク
第一支部西國東郡
第二支部宇佐郡
第三支部下毛郡
第四支部築上郡

第五條 本組合地區内ニ住居シ組合漁場ニ於テ漁業ヲ爲ス者ハ組合ニ加盟スルモノトス

第三十九條 入漁ハ從來慣行アル漁業者ニ非レハ之ヲ許サズ但會議ニ於テ特ニ許可スルモノハ此
限リニアラス

第四十條 慣行ナキ組合外ノモノハ本組合トノ特約ヲナシタル後ニアラサレハ本組合漁場内ニ於
テ漁業セシメサルモノトス

第四十一條 前條組合外ノモノ特約入漁セント欲スルトキハ連署ノ上支部長ヲ經テ組合長ヘ差出

スヘシ之ヲ認可セシ場合ハ特約書ト共ニ事業費ヲ差出スモノトス

入漁特約期限ハ一ケ年(毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄)以内トス

第四十二條 前條事業費ハ漁具漁法等ノ大小如何ニヨリ船一艘ニ付一ケ年四圓以上ヲ徴収スルモ
ノトス

第四十三條 入漁者ニハ漁具漁場及期限ヲ記スル入漁證票ヲ付與ス有効滿期ノ時ハ之ヲ返納スヘシ

第四十四條 漁撈ノ停止制限ヲ定ムルコト左ノ如シ
一 キスゴ漁ハ毎年五月一日迄ハ爲スヘカラス

二 前期鰯漁ハ毎年五月一日迄及六月十日後ハナスヘカラス
三 後期鰯漁及カマス兒漁ハ毎年九月廿日迄ハナスヘカラス

四 晝引鮎漁ハ毎年九月二十九日迄ハナスヘカラス
五 夜引鮎漁ハ毎年十一月七日迄ハナスヘカラス

六 夕沙漁ハ毎年六月十日後ハナスヘカラス
七 鱒網漁ハ毎年三月廿日迄ハナスヘカラス

八 藻切ハ毎年五月十日迄ハナスヘカラス
九 兒キスゴ漁ハ毎年九月一日迄ハナスヘカラス

十 輝網漁ハ毎年三月十八日ヨリ九月二十八日迄ハナスヘカラス
十一 鰯建網漁ハ毎年七月廿日迄及八月二十日後ハナスヘカラス
十二 セイゴ網漁ハ毎年三月二十日ヨリ九月三十日迄ハナスヘカラス
十三 小蛸蠶漁ハ毎年五月一日ヨリ十一月十日迄ハナスヘカラス

- 十四採介及鰈搔ハ毎年五月十日ヨリ九月十日迄ハナスヘカラス
- 十五建干網漁ハ毎年七月二十日ヨリ九月一日迄ハナスヘカラス
- 十六横引網漁ハ毎年三月二十日ヨリ九月三十日迄ハナスヘカラス
- 十七餅徒歩引網漁ハ毎年九月三十日迄ハナスヘカラス
- 十八雜魚引夜ニゴランシ漁鱒網漁エソ流網漁ハ一切ナスヘカラス

第二項第四支部地先ノ部

- 一キスゴ漁ハ毎年五月一日迄ハナスベカラス
- 二前期鰈漁ハ毎年五月一日迄及六月三十日後ハナスヘカラス
- 三後期鰈漁及カマス兒漁ハ毎年九月四日迄ハナスヘカラス
- 四晝引餅漁ハ毎年九月二十日迄ハナスベカラス
- 五夜引餅漁ハ毎年十一月五日迄ハナスベカラス
- 六夕潮漁ハ毎年六月十日後ハナスベカラス
- 七雜魚引夜ニゴランシ漁鱒網漁エソ流シ漁ハ一切ナスベカラス
- 八藻切ハ毎年五月十日迄ハナスベカラス
- 九兒キスゴ漁ハ毎年九月一日迄ハナスベカラス
- 十餅網漁ハ毎年三月十八日ヨリ九月二十日迄ハナスヘカラス
- 十一鰈建網漁ハ毎年七月二十日及八月卅日後ハナスベカラス
- 十二セイゴ網漁ハ毎年三月二十日ヨリ九月三十日迄ハナスベカラス
- 十三小蛸並漁ハ毎年五月一日ヨリ八月三十日迄ハナスベカラス

- 十四採介及鰈搔ハ毎年五月十日ヨリ九月十日迄ハナスベカラス
- 十五横引網漁ハ毎年三月二十日ヨリ九月三十日迄ハナスベカラス
- 十六餅徒歩引網漁ハ毎年九月三十日迄ハナスベカラス
- 十七小建干網漁ハ毎年六月一日ヨリ八月三十日迄ハナスベカラス
- 但一町村以上ノ共同事業トシ漁場ハ隣村浦取締人立會ノ上之ヲ定ムルニアラサレバ使用スルヲ得ス且網目ハ曲尺八分以上ニ限ルモノトス
- 十八縛網漁ハ底アリ繩ヲ用ユルヲ得ス
- 十九飯網及四ツ網ハ毎年五月九日迄及八月十一日後ハナスヘカラス
- 二十寄操網漁ハ毎年七月十日ヨリ九月二十日迄ハナスベカラス

第三項第五支部地先ノ部

- 一キスゴ漁ハ毎年六月十一日ヨリ九月廿日迄ハナスベカラス
- 二カマス兒漁ハ毎年九月四日迄ハナスヘカラス
- 三餅晝引漁ハ毎年九月廿日迄ハナスヘカラス
- 四餅夜引漁ハ毎年十一月七日迄ハナスヘカラス
- 五藻切ハ毎年五月十日迄ハナスヘカラス
- 六兒キスゴ漁ハ毎年九月一日迄ハナスヘカラス
- 七鱒網漁ハ毎年五月廿日迄ハ各村浦島賊柴ツケ場ヨリ三丁以内ニ於テナスベカラス
- 八小建干漁ハ毎年五月一日ヨリ八月卅日迄ハナスベカラス
- 但一町村以上ノ共同事業トシ漁場ハ隣村浦取締人立會ノ上之ヲ定ムルニアラサレバ之ヲ

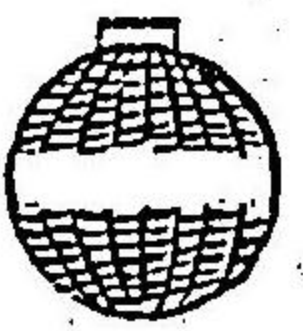
使用スルヲ得ズ且網目ハ曲尺八分以上ニ限ルモノトス
 九縛網漁ハ底ブリ繩ヲ用ユルヲ得ス
 十飯網漁ハ毎年五月九日迄及八月十一日後ハナスベカラズ
 十一寄操網漁ハ毎年七月十日ヨリ九月廿日迄ハナスベカラズ
 十二烏賊ノ瀬落シ漁及夜曳鰈漁ハ一切ナスベカラズ
 十三練鰈指漁ハ沙ノ干詰ヨリ中滿迄ノ外ナスベカラズ又恒見字細石ノ鼻以西今津漁場ヲ限リ
 沙ノ干中ヨリ中滿ノ外ナスベカラズ又葦島以東沿海ハ夜間ナスベカラズ
 第四十五條 從來普通一般慣用ノ漁場及漁具漁法ヲ變更セントスル時ハ豫メ組合長ノ承認ヲ經ル
 モノトス
 第四十六條 干見建干鰈建舩徒歩引横引舩建從來認許ヲ得タル場所及個數ノ外一切之ヲ使用スル
 ヲ得ザルモノトス
 第四十七條 新規發明又ハ他方ヨリ傳來ノ漁具ハ組合會ノ決議ヲ經サレバ恣ニ使用スルヲ得サル
 モノトス
 第四十九條 組合長ノ承認ヲ經サレバ一漁具ニシテ組合ノ者十一名以上ヲ使役シ又ハ組合外ノ者
 ト連帶シテ漁業ヲ爲スヘカラス
 第五十條 本組合ノ全漁場區域ハ大分縣西國東郡岬村漁場ヨリ福岡縣企救郡東郷村漁場迄トス
 第五十一條 漁場ハ從來ノ慣行ニ依ル
 第六十五條 本組合ニ差出ス書類ハ總テ其地取締人及支部長ヲ經由スルモノトス

氣象

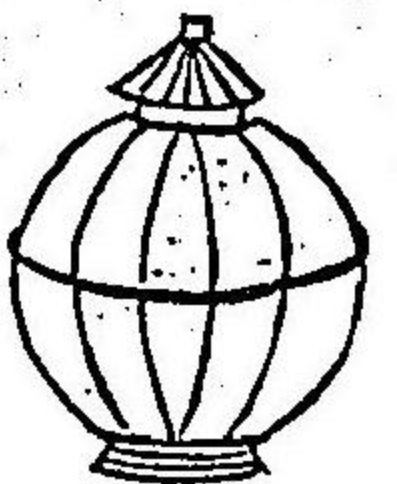
○第四十八号 (明治十八年八月廿日)

本縣下福岡區博多下洲崎町海岸濱地へ博多仲買諸問屋ニ於テ私費ヲ以テ暴風警報信号柱ヲ建設シ
 本月十日以後警報到達ノ時々左ニ記載ノ目標ヲ掲ケ其ノ變動ノ前兆ヲ示スヘシ

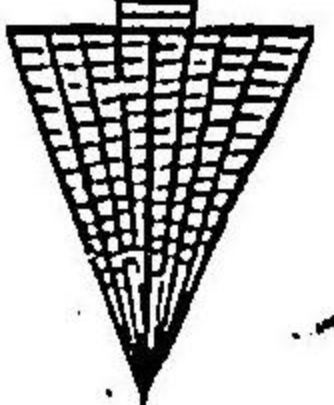
風位不明
ノトキ



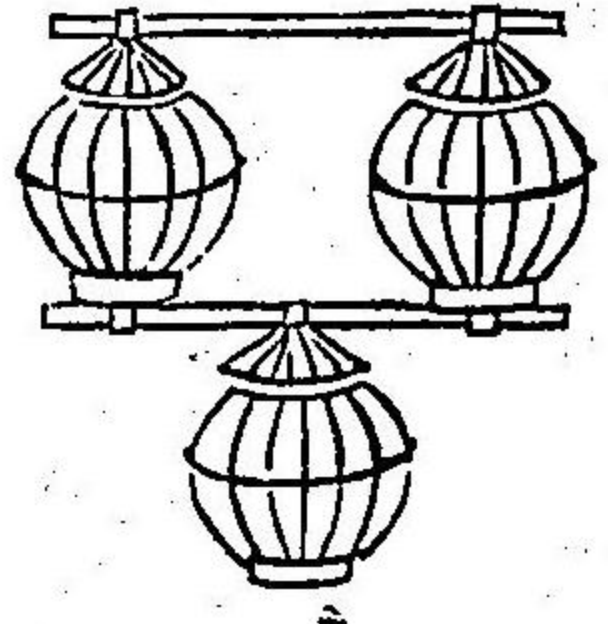
夜同
間上



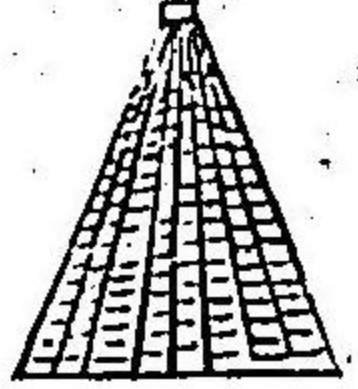
南
風



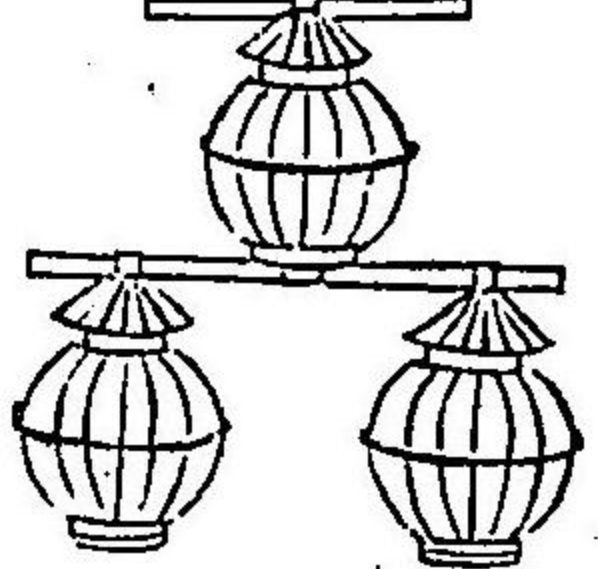
夜同
間上



北
風



夜同
間上



右告示候事

○告示第四五號

(明治二十九年四月十四日)

本縣測候所ノ義來ル五月一日ヨリ一等測候所トシ且地方天氣豫報ヲ發シ左記ノケ所ニ之ヲ揭示ス
 本縣測候所前
 福岡市福岡橋口町巡查交番所前

○告示第八八號 (明治三十年五月二十八日)

本縣測候所構内ニ天氣信號柱ヲ建設シ來ル六月一日ヨリ左ノ標旗ヲ以テ毎日福岡市地方天氣豫報ノ信號ヲ掲ク

天氣豫報信號

- 一、天氣ノ信號ハ三角旗、方旗ノ二個ヲ以テ連掲ス但「風向定マラス」ノ豫報ニハ方旗ノミヲ掲ク
- 一、三角旗ハ風ヲ豫報スルモノニシテ其類別左ノ如シ



- 一、方旗ハ天氣ヲ豫報スルモノニシテ其類別左ノ如シ
 但シ夜間ハ各色ノ燈火ヲ點ス

白 晴レ

赤 曇リ

青 雨又ハ雪

「曇レル」ノ豫報ニハ「晴レ」ノ方旗ヲ用ヒ附加文言アルル例之ハ「曇リ」但多少ノ雨アルヘシ等ノ豫報ナルルハ「曇」ト「雨」ノ方旗ヲ連掲スルノ類トス

○福岡縣訓令第一七号

(明治三十三年三月十四日)

郡市役所 (福岡市)

管内氣象觀測規程別紙ノ通り改正候條本年四月一日ヨリ施行スヘシ

但明治二十六年八月十七日付訓第三八四号ハ本年三月三十一日限り廢止ス

氣象報告規程

第一條 管内氣象調査ノシメ縣下ニ於テ概要ノ地ヲ指定スル左ノ如シ

三池郡	宮部	山門郡	柳河	三潯郡	榎津
八女郡	福島	久留米市		三井郡	善導寺
浮羽郡	吉井	朝倉郡	甘木	筑紫郡	雜餉隈
糸島郡	前原	粕屋郡	大川	遠賀郡	蘆屋
宗像郡	東郷	鞍手郡	直方	田川郡	香春
嘉穂郡	飯塚	築上郡	椎田	企救郡	小倉
京都郡	行事	門司市		早良郡	西新町

第二條 指定地ノ郡市役所ハ此規程ニ據リ氣象觀測ヲ施行シ福岡測候所ヘ報告スヘシ

第三條 指定地ノ郡市役所ハ左ノ事項ヲ觀測シ期日ヲ違ヘス報告スヘシ

- 一、氣象月報 毎日午前十時一回ノ氣溫、風向、風力、天氣及一日中ノ最高最低溫度、雨雪量、積雪等翌月五日迄
- 二、雷雨月報 雷雨、初終ノ時刻方向、強弱、等翌月五日迄
- 三、臨時報告 地震、暴風雨、初終霜雪期等二日以内
- 四、動植物報告 播種期、發芽期、發盛期、開花期、成熟期、收穫高來期、去期等二月十日、七月十日迄

第四條 指定地ニ於ケル郡市役所ハ前條ノ現象ヲ觀測スル爲メ普通寒暖計、最高寒暖計、最低寒暖計、雨量計、風信器、寒暖計箱等ヲ備フヘシ

但氣象觀測ニ使用スル器械ハ中央氣象台若クハ測候所ノ檢定ヲ經タルモノニ限ル

第五條 空氣溫度ハ定時ニ於ケル午前十時ノ現示度及一日中ノ最高低極度ヲ觀測スルモノトス即最高低寒暖計ハ午前十時ニ觀測復度シ其最高示度ハ前日ノモノトシ最低示度ハ當日ノモノトス但溫度ノ數ハ攝氏度ヲ用ユ一度ノ十分ノ一迄ヲ讀ミ取リ其氷点以下ノ數ニハ(一)ノ記号ヲ付ス時刻ハ渾テ本邦中央標準時ヲ用ヒ常ニ時辰器ヲ整理シ觀測時ヲ誤ルヘカラス

第六條 風向ハ八方位ニ分チ風力ハ左ノ推測標準ニ依ル

階級 推測標準

靜穩 煙殆ント直上スルモノ

軟風 枝葉ヲ動カスモノ

和風 樹枝ヲ動カスモノ

疾風 勁枝ヲ動カスモノ

強風 樹枝ヲ折ルモノ

烈風 勁枝ヲ折リ屋瓦ヲ飛ハスモノ

颶風 樹幹ヲ折シ家屋ヲ覆スモノ

第七條 天氣ハ雲量ニ依ル滿天雲ヲ布クヲ十トシ零乃至ニ快晴、三乃至七ヲ晴、八以上十ヲ曇トシ雨雪ハ雲量ニ拘ハラズ其現象ヲ記入スルモノトス

第八條 雨雪量ハ毎日午前十時一回ニ觀測シ之ヲ前日ノ分ト見做シ前日ニ記入スルモノトス

但大雨ノ場合ニ於テハ貳拾四時間内ニ百耗ヲ越ヘタルハ即時臨時報告スヘシ

雨雪ノ水量ハ耗ヲ用ユ一耗ノ十分ノ一迄ヲ讀ミ取テ要ス

第九條 不時ノ現象ハ平生ニ注意觀察シテ細大洩サス摘録ニ詳記スヘシ

第十條 地震ヲ感知シタルハ大小ニ拘ハラス初起ノ時刻及方向強弱其他全体ノ模様ヲ詳記シテ即時報告スルモノトス

第十一條 雷雨報告ハ降雨ノ有無ニ拘ハラス雷鳴始終ノ時刻方向遠近強弱等ヲ觀測シ月報トシ報告スルモノトス

但劇雷ノキハ即報スヘシ

第十二條 臨時報告ニ屬スル事項ニシテ被害ヲ生シタル場合ハ殊ニ其景況ヲ急報スヘシ

第十三條 動植物報告ハ年々略ホ同一ノ場所又ハ同一ノ地方ニ於ケル動植物ノ變遷ヲ記載スルモノニシテ年々其種類ヲ換ヘス觀測スヘシ

但或ル數種ヲ限リ施行スルモ妨ケナシ

第十四條 指定地ニ於ケル氣象觀測ノ費用ハ總テ郡市役所ノ經費ヨリ支辨スヘシ

但報告用紙ハ之ヲ福岡測候所ヨリ交附セシム

第十五條 氣象事務ヲ便宜高等小學校ニ取扱ハシメ又ハ變更スルキハ知事ニ開申スヘシ

但其費用ハ第十四條ノ規定ニ依ル

第十六條 氣象觀測主任者ハ正副二名ヲ撰定シ福岡測候所ニ通知スヘシ變更シタルキモ亦同シ

第十七條 本規定ニ於ケル氣象觀測ヲ始行セントシ又ハ其事業ヲ廢止セントスルモノハ維持ノ方法等ヲ詳記シ郡市長ヲ經由シテ知事ノ認可ヲ受クヘシ

蚕種検査及蚕糸業

○縣令第二四号 (明治三十一年三月三十一日)

明治三十年農商務省令第八号蠶種検査法施行細則ニ基キ蠶種検査法施行手續左ノ通り相定ム

蠶種検査法施行手續

- 第一條 蚕種製造者ニシテ原種掃立前蚕種検査法施行細則第一條ノ届出事項ニ變更ヲ生シタルハ二週間以内ニ蚕種検査所ヘ届出ツ可シ
- 第二條 蚕種製造者原種ノ掃立ヲ終リタルハ第一号甲雛形上簇ヲ終リタルハ全号乙雛形ニ據リ直ニ届出ツ可シ
- 但シ種繭選別ハ上簇ノ日ヨリ十二日以内ニ結了スルモノトス
- 第三條 第二條ノ届出後其事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其都度速ニ届出ツベシ
- 第四條 蚕種製造者製種用トシテ掃立タル蚕兒ノ全部若クハ其一部ヲ賣買譲與シタルトキハ双方連署ノ上雛形第二号ニ依リ届出ツヘシ
- 第五條 蠶種製造者蚕種検査法施行細則第七條ニ依リ繭ノ撰別及量定ヲ終リタルトキハ豫メ雛形第三号表ヲ調製シ検査員臨檢ノ際ニ差出スヘシ
- 第六條 蚕種検査法施行細則第二條記載ノ種類名稱ハ判明シ易キ爲メ大書スヘシ
- 第七條 原種製造ニ使用スル閏環ノ内徑ハ凡ソ一寸四分トシテ一枚二十八蛾區ニ定ムヘシ
- 第八條 原種用ノ母蛾ハ必ス紙袋ニ入レ之ヲ蠶紙産卵區ノ符号順ニ綴リ置クヘシ
- 但シ符号ハ總テ日本數字ヲ用ヒ蠶紙一枚毎ニ符号ヲ新ニスヘシ

- 第九條 蠶種検査法施行細則第十一條ノ場合ニ於テハ其截斷區毎ニ全則第二條第一二号ノ事項ヲ台紙ノ裏面ニ明記スヘシ
- 第十條 蚕種製造者原種用ノ母蛾ヲ亡失シタルトキハ受檢前ニ於テ其産卵區ヲ切除シ蚕種検査所ニ差出スヘシ
- 第十一條 原種ハ其製造ニ供用シタル母蛾ヲ深ヘ雛形第四号ノ原種母蛾検査願ヲ附シ検査所開始後五日以内ニ所轄蚕種検査所ニ差出スヘシ
- 蚕種検査所ハ出願人ヲ立合ハシメ毎蚕種ヲ母蛾ト引合セ双方ニ受付番号ヲ記シ預リ証ヲ交付スヘシ
- 第十二條 蚕種検査法施行細則第十二條ノ有毒産卵區ハ所轄蚕種検査所ニ於テ除去スヘシ
- 第十三條 出願人原種母蛾検査済ノ告知ヲ受ケタルトキハ蚕種検査所ニ出頭シ其指示ニ從ヒ蚕種ノ枚數及証印ノ有無ヲ檢シ預リ証ヲ返納シ蚕種ヲ受領スヘシ
- 第十四條 蠶種製造者ハ蠶種検査監督ノ爲メ知事ノ命シタル吏員ヨリ製種ニ供スル蠶兒原種ノ掃殼種繭蚕種等ノ檢閱ヲ求メタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ
- 第十五條 蚕種検査所ハ當分縣廳内ニ設置ス
- 但シ時宜ニ依リ位置區域ヲ變更スルトキハ更ニ告示スヘシ
- 第一号 甲雛形(用紙半紙)

種 類	名 稱	掃立蛾數	掃立月日	飼育場地名	飼育担当者氏名

右ノ通相違無之候也
年月日

郡市町村大字番地

蠶種製造人 氏

名印

蚕種検査所宛

第一号 乙 雛形(用紙半紙)

種	類	上	簇	月	日	種	繭	撰	別	結	了	月	日
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

右之通相違無之候也

年月日

郡市町村大字番地

蚕種製造人 氏

名印

蚕種検査所宛

雛形第二号 (用紙半紙)

製種用蠶兒賣買(讓與)届

種	類	名	稱	最初掃立 届出蛾數	賣買 讓與 蛾數	現在蛾數	賣買 讓與 蚕兒見込高	現在蠶兒見込高
春	蠶	又	昔	何 蛾	何 蛾	何 蛾	何 頭	何 頭

全	全	全	全	全	全	全	全	全
---	---	---	---	---	---	---	---	---

右之通賣買(讓與)仕候間此段及御届候也

年月日

郡市町村大字番地

賣渡(讓渡)人 氏

名印

郡市町村大字番地

買受(讓受)人 氏

名印

蠶種検査所宛

雛形 第三号(用紙半紙)

收購量及蠶種製造高見込表

郡市町村大字番地
氏

名

種	類	名	稱	春	蠶	又	昔	春	蠶	青	熟	春	蠶	赤	熟				
掃	立	蛾	數	何	何	蛾	何	何	何	蛾	何	何	何	蛾	何				
種	繭	樹	量	何	石	何	斗	何	舛	何	合	何	石	何	斗	何	舛	何	合

雛形 第四号(用紙半紙)			
除 去 繭 柵 量	原 種 用 種 製 造 見 込 高	製 糸 用 種 製 造 見 込 高	發 蛾 見 込 月 日
全	何	何	月 日
全	何	何	月 日
全	何	何	月 日
全	何	何	月 日

原種母蛾検査願			
名 稱	又	何	何
枚	昔	々	々
數	枚	枚	枚
蛾	何	何	何
數	何	何	何
全	全	全	全
全	全	全	全

右御検査被成下度候也

年 月 日

蠶種検査所宛

郡市町村大字番地

蠶種製造人 氏

名 印

○訓第一九四号

(明治三十一年三月三十一日)

郡 役 所 市 役 所
蠶種検査所

蠶種検査事務取扱心得左ノ通相定ム

蠶種検査事務取扱心得

第一條 蠶種検査所ニ於テ左ノ職員ヲ置ク

検査主事

一名

検査員

若干名

書記

一名

助手

若干名

第二條 検査主事ハ常應ノ指揮監督ヲ受ケ検査所一切ノ事務ヲ掌理ス

第三條 検査員ハ検査主事ノ指揮ヲ受ケ検査事務ニ従事ス

第四條 書記ハ検査主事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第五條 助手ハ検査主事及検査員ノ指揮ヲ受ケ検査事務ニ従事ス

第六條 検査主事ハ検査員中ヨリ之ヲ命ス主事不在ノトキハ首席検査員其職務ヲ代理ス

第七條 執務時間ハ毎日午前八時ヨリ午後四時迄トス
但祝日大祭日日曜日ハ休暇トシ事務繁劇ノ場合ハ時間ヲ延長スルコトアルヘシ

第八條 検査所員ハ毎朝出勤後直ニ出勤簿ニ押印スヘシ若シ病氣其他ノ事故ニ依リ出勤スルコト能ハサルトキハ出勤時限後三十分以内ニ其旨届出ツベシ

第九條 検査所員ハ當廳ノ許可ヲ得スシテ私ニ検査所ノ文書又ハ帳簿等ヲ他人ニ閱覽貸與又ハ謄寫セシムルコトヲ得ズ

第十條 検査員ハ帳簿其他ノ文書受託物検査用器具等ヲ整理保管シ其紛失破損ニ對シテハ各其責ニ任スヘシ

第十一條 検査所ニ到達シタル公文書ハ文書受付簿ニ記入スベシ

第十二條 検査所ヨリ發送スル種繭証明書及其他ノ文書ハ検査所名ヲ用ヒ証明書種繭証明台帳ニ其他ノ文書ハ文書發送簿ニ登録スヘシ

第十三條 検査所ニ於テ取扱ヒタル事務ハ其事項ヲ日誌ニ摘録スヘシ

第十四條 検査員出張セシトキハ所理シタル要領ヲ出張日誌ニ記録シ蠶種検査法第九條ノ視察ヲナシタルトキハ登況視察録ヲ添ヘ歸所後直ニ検査所ヘ差出ス可シ

第十五條 蚕種製造者ヨリ蚕種検査法施行手續第二條ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ種繭検査豫定期日台帳ニ記入スヘシ

第十六條 蠶種製造者ヨリ蠶兒又ハ種繭ノ賣買讓與ヲ届出テタルトキハ關係諸帳簿ノ記入ヲ訂正スヘシ

第十七條 蠶種検査員職務上使用スル印判ハ其印鑑ヲ蚕種検査所ニ差出スヘシ
但シ改印シタル時ハ其都度印鑑ヲ差出スヘシ

第十八條 蠶種検査員蚕種検査法施行細則第七條ニ基キ撰別シタル種繭ノ適否ヲ定ムルニハ全体ニ就キ肉眼鑑定ヲ行ヒ蚕種検査法第三條ノ各号ニ該當スル繭アリト認ムルトキハ其繭ヲ撰定シテ製造者ニ示シ蚕種検査法施行細則第八條ノ改撰ヲ命シ更ニ検査ヲ行フヘシ

第十九條 蚕種検査法施行細則第五條第一号及第二号ニ對スル合格標準ヲ定ムルコト左ノ如シ
一、種繭中ヨリ一舛宛三回ニ採リ其顆數ヲ算シ一升ノ平均顆數ヲ定メ之ヲ總樹量ニ乗シ掃殼ニ對照シ一産卵區ニ付キ四百顆以下ヲ以テ合格トス
二、種繭中ヨリ一舛宛三回ニ採リ其出蛾繭數ヲ算シ一舛ノ出蛾繭數ヲ定メ之ヲ種繭ノ總樹量ニ乗シ産卵數ト對照シ其蛾數出蛾繭ノ半數以下ナルモノヲ以テ合格トス

第二十條 原種母蛾検査願ヲ受ケタルトキハ原種用種検査台帳ニ受付月日名稱枚數蛾數及製造者ノ住所氏名ヲ登錄シ検査ヲ了リタル後ハ其成績ヲ記入スベシ

第二十一條 原種母蛾ノ検査ハ出願ノ順序ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十二條 顯微鏡検査ヲ行フトキハ検査成績用紙相當欄内ニ有毒(十)無毒(一)符号及必要ナル事項ヲ明記シ且検査員認印スベシ

第二十三條 原種ノ各産卵區ニ押印ヲ了リタルトキハ更ニ之ヲ精算シ有毒産卵區ヲ截斷シ証印ヲ押捺スヘシ

第二十四條 検査員蠶種検査法施行細則第十條及第十二條ノ検査合格証印ヲ押捺スルトキハ全時ニ自己ノ捺印ヲ添フヘシ

第二十五條 蠶種検査法第十一條ノ検査ハ特ニ指定シタル検査員之ヲ行フヘシ
 第二十六條 検査所備付ノ印章ハ蠶種検査主事之ヲ保管スヘシ
 第二十七條 検査印章ヲ携帶出張セントキハ其検査員保管ノ責ニ任スヘシ
 第二十八條 諸印章ハ退所前印箱ニ納メ蠶種検査主事封印ノ上嚴重保管スヘシ
 第二十九條 検査員ハ蠶種検査成績報告書ヲ調製シ閉所後十日以内ニ當廳ニ差出スヘシ

○縣令第二五號 (明治三十二年四月二十六日)
 自家用蠶種検査手續左ノ通り相定メ本令發布ノ日ヨリ施行ス

自家用蠶種検査手續
 第一條 自家用蠶種ノ原種トナルモノハ郡農會ノ請求ニ據リ縣廳ノ検査ヲ受クルコトヲ得
 第二條 蠶種検査所ノ検査ヲ受ケントスルモノハ梓製コシテ其母蛾ハ必ズ紙袋ニ入レ之レヲ台紙
 産卵區ノ符合順ニ綴リ置ケルモノニ限ル
 第三條 前條ノ検査ヲ受ケントスルキハ郡農會ニ於テ九月一日ヨリ全十五日迄ニ第一号雛形ニ據
 リ検査願書ヲ縣廳ニ差出其認可ヲ得テ十一月一日ヨリ同十五日ノ間ニ於テ現品ヲ差出スヘシ
 但シ受檢蠶種ハ一人ニ付貳拾八蛾ヲ定度トスト雖モ都合ニ據リ尙制限ヲ附スルコトアルヘシ
 第四條 台紙ノ表面又ハ裏面ニ種類名稱及製造者ノ住所姓名ヲ判明シ易キ様記載スヘシ
 第五條 有毒蛾ノ産卵區ハ検査所ニ於テ除去スヘシ
 第六條 検査済ノ告知ヲ受ケタルキハ便宜受取ノ手續ヲナスヘシ
 雛形第壹号(用紙半紙)

母蛾検査願

名	稱	枚	數	蛾	數	受檢人住所姓名
何	々	々	々	々	々	何郡何村大字何何 某
又	昔	何	枚	何	蛾	
何	々	々	々	々	々	
何	々	々	々	々	々	

右御検査奉願候也

年 月 日

知 事 宛

何郡農會長 氏 名 印

○福岡縣令第七五號 (明治三十三年九月六日)

明治三十二年縣令第二十四号蚕業補助費下付規程左ノ通改正ス
 蚕業補助費下付規程

第一條 縣農會及市ニ於ケル蚕糸業組合ニ於テ蚕業改良ノタメ左ノ各號ノ事業ヲ施行スルトキハ
 本規程ニ依リ其費用ヲ補助ス
 一 縣郡又ハ市ノ區域ヲ以テ巡回教師ヲ置キ日數六拾日以上各戸ニ就キ養蚕法ヲ教示シ兼テ自

家用蚕種ニ對シ蚕種検査法ニ準シ製糸用種ニ屬スル繭卵ノ検査ヲ施行スルトキ

二 縣郡又ハ市ノ區域ヲ以テ養蚕講習所ヲ設ケ教師ヲ聘シ一ヶ所ニ付春蚕蠶量拾五匁以上ヲ掃立日數五拾日以上生徒拾五名以上ヲ養成スルトキ

三 生徒ヲ本縣養蚕講習所ニ入所セシメ又ハ視察員ヲ他府縣ニ派遣スルトキ但視察員ハ縣農會ニ於テ一ヶ年三名市蚕業組合ニ於テ六ヶ年ニ壹名ヲ限リトス

四 縣郡又ハ市ノ區域ヲ以テ蚕室蠶具ノ消毒法ヲ實行シ一區域ニ付金貳拾圓以上ノ實費ヲ要スルトキ

前項第一号乃至第四号ノ事件ハ縣農會ニ於テ郡農會ヲシテ施設セシムルコトヲ得

第二條 補助ヲ請ケントスルトキハ事業着手前左ノ事項ヲ具シ縣知事ニ出願スベシ

一 第一條第一項第一號ニ就テハ其區域内養蚕家ノ數、教師巡回ノ方法、教師ノ履歷書並之ニ要スル經費豫算

二 同項第二號ニ就テハ一ヶ所毎ニ其講習所規程、講習所位置、生徒豫定數、豫定設備、教師ノ履歷書并經費豫算

三 同項第三號ニ就テハ本人ノ履歷書、入所又ハ派遣ノ場所并之ニ要スル經費豫算

四 同項第四號ニ就テハ消毒ヲ施行スル養蚕家ノ數消毒ノ方法并之ニ要スル經費豫算

第三條 補助費ハ其成績及經費決算高ニ對シ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ下付ス

一 第一條第一項第一號ニ就テハ一設置區域毎ニ金參拾圓以上金百圓以下

二 同項第二號ニ就テハ一ヶ所毎ニ金參拾圓以上金六拾圓以下

三 同項第三號ニ就テハ講習所入所生ニハ一名金拾五圓以下視察員ニハ壹名金拾五圓以上金五拾圓以下

拾圓以下

四 同項第四號ニ付テハ金百圓以下

第四條 第二條ニ依リ補助費下付ノ許可ヲ受ケタルトキハ事業終了後三週日以内ニ左ノ事項ヲ縣知事ニ報告スベシ

一 巡回教師雇人ニ付テハ巡回ノ成績調書及ヒ精算書

二 講習所設置ニ就テハ授業日數、生徒數講習中ノ成績及精算書

三 本縣養蚕講習所入所生ニ就テハ入所中ニ係ル實費精算書他府縣視察員ニ就テハ視察日數復命書及ヒ其經費精算書

四 蠶室蠶具消毒法ノ施行ニ就テハ之ヲ施行シタル養蚕家ノ數消毒ノ方法並經費精算書

第五條 補助費下付ノ許可ヲ受ケテ其事項ヲ履行セス又ハ怠慢ノ所爲アルトキハ其許可ヲ取消スコトアルベシ

害虫驅除豫防

○縣令第二〇號 (明治三十一年三月二十二日)

明治二十九年法律第十七号害虫驅除豫防法ニ據リ害虫驅除豫防規則左ノ通り相定ム

但明治廿九年縣令第三九号螟蟲驅除豫防施行規則ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

害虫驅除豫防規則

第一條 害虫驅除豫防法第二條ニ依リ驅除豫防スヘキ害虫ノ種類及驅除豫防ノ方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 害蟲ノ種類

- 一 稻 螟 蟲 方言スムシ、ズイムシ、ナカザシ、イ子ノドウムシ、シンキリ、カラクダシ、 稻
 - 一 浮 塵 子 方言コヌカムシ、アギムシ、サ子モリムシ 稻
 - 一 椿 象 方言ホフ、フウ、ガメムシ、コウツムシ 稻及粟
 - 一 夜 盜 蟲 方言ホウジムシ、ホウジヨウムシ、シ、ヨアラシ、ヒヨウユムシ 豆類其他
 - 一 楡虫帖嘶葉卷虫 方言ヒジムシ、ハチケムシ 楡樹
- 主ナル被害植物

第二 驅除豫防方法

- 一 螟虫 一殺虫燈ヲ点シ螟蛾ヲ誘殺スベシ
- 二 捕虫網ヲ以テ螟蛾ヲ捕殺スヘシ
- 三 螟卵ヲ採集シテ之ヲ殺スヘシ
- 四 仔虫ノ喰入又ハ蛹ノ棲息スル枯莖白穂ハ根際ヨリ拔取若クハ切取燒棄スヘシ
- 五 三化性螟虫甚シキ場所ノ稻株ハ切斷若クハ掘取リ殺虫法ヲ行フヘシ
- 六 二化性螟虫ノ甚シキ場所ノ刈藁ハ殺虫法ヲ行フヘシ
- 七 前年ノ被害地及其近接地ニ於テハ苗代田ハ凡テ幅四尺ノ短冊形ニ整地スヘシ
- 一 浮塵子 一 稻田ニ水ヲ湛ヘテ油ヲ注ギ稻株ヲ振蕩スベシ
- 二 田面旱燥若クハ排水後ニ於テハ油ヲ混シタル水ヲ以テ稻株ヲ洗淨シ若クハ之ニ撒布スベシ
- 三 捕虫袋ヲ以テ浮塵子ヲ捕殺スベシ

三十三年縣令第七六号ヲ以テ改正

四点火誘殺法ヲ行フベシ

五前年ノ被害地及其近接地ニアル畦畔堤塘等ノ雜草ハ春季燒棄スベシ

六發生ノ虞アル片ハ秋氣排水ヲ延期スベシ

一 椿象 一 産卵ニ先チ 稻田ニアリテハ六月頃、粟畑ニアリテハ九月頃 捕殺スベシ

二 穂ヲ傾ケ油ヲ混シタル 水凡壹升、油凡壹合 水中ニ拂落スベシ

三 卵塊ノ附着スル葉莖ノ類ハ摘採燒棄スヘシ

四 冬季蟄伏ノ場所 堤塘若クハ畔ニアル樹、木ノ根際若クハ岩石ノ下 ヲ探リ捕殺スベシ

五 前年ノ被害地若クハ其近接地ノ雜草ハ春季燒棄スヘシ

一 夜盜蟲

一 被害地ノ周圍ニ丸竹ヲ横ヘテ防禦シ若クハ溝ヲ掘テ陷落セシメ捕殺スヘシ

二 晝間ハ潜伏(重ニ根際)スルモノヲ夜間ハ顯出(重ニ葉際)スルモノヲ捕殺スヘシ

三 卵塊ノ附着スル葉莖ノ類ヲ摘採燒棄スベシ

一 楡虫

一 仔虫ノ群棲スル枝葉ヲ伐採燒棄スヘシ

二 蛹及蛾ヲ捕殺若クハ誘殺スヘシ

三 樹皮若クハ朽幹内ニ産付セル卵塊ヲ採集燒棄スヘシ

第二條 害虫田畑ニ發生シ又ハ發生ノ虞アル片ハ作人ハ直ニ本則ニ定メタル驅除豫防ニ着手シ口頭若クハ書面ヲ以テ市町村長ニ届出スベシ

第三條 市町村長ニ於テ前條ノ届出ニ接シタル日ハ直ニ實地ヲ調査シ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ本則ニ定メタル驅除豫防方法ノ全部又ハ一部ヲ行ハシメ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ急報スヘシ

郡市町村長ニ於テ害虫田畑ニ發生シ又ハ發生ノ虞アル事ヲ發見シタル日モ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルカ又ハ怠慢ノ所爲アル日ハ町村長ハ郡長ニ具申シ郡市長ハ害虫驅除豫防法第三條第二項ニ依リ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行ハシメ其費用ハ作人ヨリ徴收セシムルヲ得此場合ニ於テハ郡市長ハ狀ヲ具シ直ニ知事ニ急報スヘシ

第四條 郡市長ニ於テ前條各項ノ急報ヲ爲スニ當リテハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 害虫ノ種類及被害作物ノ名稱
- 一 驅除豫防ヲ行フベキ區域及期限
- 一 被害ノ狀況及驅除豫防ノ方法〔本則ニ定メタル方法ノ全部ニヨリカ又ハ一部ナルカ〕

第五條 害虫田畑ニ蔓延シ又ハ蔓延ノ兆アル日ハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ第四條ノ各項ヲ具シ急報スヘシ

郡市長ニ於テ害虫驅除豫防法第四條若クハ第五條ノ施行ヲ必要ト認ムル場合ハ本則第四條各項ノ外左ノ調書ヲ添ヘ知事ニ具申スヘシ

但シ害虫ノ蔓延迅速ニシテ急施ヲ要スル日ハ直ニ害虫驅除豫防法第四條若クハ第五條ヲ施行スルヲ得此場合ニ於テハ本項ノ調書ヲ添ヘ知事ニ急報スヘシ

- 一 驅除豫防ニ要スル經費ノ収支豫算
- 一 夫役賦課ヲ必要トスル場合ハ其方法〔賦課ノ區域及課率等〕

第六條 害虫ニ郡市以上ノ田畑ニ蔓延シ又ハ蔓延ノ兆アル日ハ關係郡市長ハ區域及同一ノ驅除豫防方法ヲ議定シ知事ニ具申スヘシ

但シ關係郡市長ノ意見投合セサル時ハ狀ヲ具シ知事ノ指揮ヲ乞フヘシ

第七條 害虫驅除豫防法第六條ニ依リ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物薊稈、刈株、雜草ヲ拔棄若クハ燒棄スルノ必要アリト認ムル日ハ郡市長ハ直ニ知事ニ具申スヘシ

第八條 害虫田畑以外ノ地ニ發生シ若クハ發生ノ兆アル日又ハ蔓延シ若クハ蔓延ノ兆アル日ハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ具申スヘシ

第九條 知事ニ於テ前四條ノ具申ニ接シタル日又ハ具申ニ接セサルモ必要ト認ムル日ハ害虫驅除豫防法第四條及第五條ニ依リ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

第十條 本則第一條ニ規定セル以外ノ害虫發生シ若クハ發生ノ兆アル日又ハ虫類以外ノ動物ニシテ農作物ヲ害スル日若クハ害スルノ虞アル日ハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ急報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムル日ハ知事ハ驅除豫防ノ方法ヲ定メ其他ノ作人又ハ郡市町村長ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

第十一條 害虫驅除豫防施行期間日々ノ景況ハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ每週報告スヘシ

第十二條 本則實施監督ノ爲メ縣廳農事試驗場及郡市役所町村役場ニ於テハ吏員ノ中三名以上ノ委員ヲ常置スルモノトス

但郡市役所町村役場ニ於ケル委員ノ交代ハ其都度知事ニ報告スヘシ

第十三條 本則ニ據リ害虫驅除豫防ヲ實施シタル市町村ニ對シテハ其成績及費用ノ支出高ヲ調査シ地方費ヲ以テ補助金ヲ與フル事アルヘシ

第十四條 毎年度ニ於テ施行シタル害虫驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ據リ町村長ハ翌年四月五日限リ郡長ニ報告シ郡市長ハ同月十日限リ知事ニ報告スヘシ

害虫名 (各害虫毎ニ區分スヘシ)

市町村名	被害大字	全上農作物ノ種類	全上見積反別	此平年收積高	被害ニ付見積減収高	驅除豫防ニ係ル市町村費	全上夫役數	全上郡市費補助
計								

第十五條 此規則ハ明治卅一年四月一日ヨリ施行ス

畜産及獸疫

○縣令第三二號 (明治三十一年五月二十四日)

但明治十八年四月本縣布達第三十二号種牡牛馬取締規則中種牡馬ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス

第一條 種牡馬ニ使用セントスル者ハ所有者又ハ管理人ヨリ第一号雛形ニ據リ毎年十二月

廿五日限リ町村役場郡役所ヲ經由シ縣廳ニ願出ツ可シ

第二條 種牡馬檢査ハ毎年一回之ヲ行フ其檢査期日場所及區域ハ豫メ之ヲ告示ス

第三條 檢査上種牡馬ニ適當ト認ムルトキハ種牡馬檢査法第二條ニ依リ右前蹄蹄壁ノ前面ニ左ノ烙印ヲ押シ其所有者又ハ管理人ニ第二号雛形ノ證明書ヲ下附ス

檢

直徑七分

第四條 種牡馬所有者ニシテ其住居地以外ニ種牡馬ヲ繋留スルキハ其管理人ノ住所氏名ヲ町村役場郡役所ヲ經由シ縣廳ニ届出ス可シ

第五條 種牡馬所有者又ハ管理人ニシテ證明書有効期限内種牡馬ヲ廢止セントスルキハ證明書ヲ添ヘ町村役場郡役所ヲ經由シ縣廳ニ届出ス可シ

第六條 種牡馬檢査法施行細則第六條第二項ノ烙印ハ左ノ如シ

消

直徑八分

第七條 種牡馬檢査法施行細則第八條ノ場合ニハ種牡馬所有者又ハ管理人ハ其事由ヲ詳記シ町村役場郡役所ヲ經由シ縣廳ニ届出又ハ願出ツ可シ

種牡馬ヲ賣買讓與又ハ交換シタル場合ニハ當時者連署ヲ以テ届出ツ可シ

三十一縣令第
三四号ヲ以テ改
正

第八條 種牡馬所有者又ハ管理人ハ種牡馬檢査法施行細則第九條ニ依リ第三号雛形ノ帳簿ヲ調製スヘシ

第九條 種牡馬所有者又ハ管理人ハ種牡馬檢査法施行細則第十條ニ依リ第四号雛形ノ血統証ヲ調製シ請求スル者アルキハ之ヲ交附ス可シ

第十條 種牡馬所有者ハ閑靜ナル土地ヲ撰ミ板圍又ハ堤防ヲ築キ交尾所ヲ設置ス可シ

第十一條 本則第一條ノ檢査願書ハ本年ニ限リ五月三十日限リ當廳ニ差出スヘシ
第一号雛形(用紙半紙)

種牡馬檢査願 (内外國種雜種)

一 種類

一 產地

一 号名

一 年齡

一 体尺

一 毛色

(特徴アルモノハ記載スヘシ)

右牡馬種用ニ致度候間御檢査被成下度此段奉願候也

年 月 日

郡町村番地

何

某

縣知事宛

第二號雛形 印ハ朱肉厚紙ニテ縦八寸横五寸八分

第 號

証 明 書

檢 査 ノ 上 種 牡 馬 タ ル コ ト ナ リ 証

表 明 ス

明 治 年 月 日

福 岡

縣 印

郡

村 町

番 地

所 有 者 何

某

種 類

號 名

年 齡

体 尺

毛 色

特 徵

期 有 限 効

農 務

畜 産 及 獸 疫

裏 內國	何	何	何	何	何	何	何
洋種	號	年	尺	毛	々	月至何年	自何年
雜種	號	年	尺	毛	々	月至何年	自何年

第三號雜形

種付牝馬ノ名	種付牝馬ノ種	種付牝馬ノ年齡	毛色	体尺	特徵	種付年月日	種付牝馬所有者住所氏名
何号	何号	何歳	何毛	何尺	何々	何何年月日	郡町村番地 何何某
全	全	全	全	全	全	全	全
何回退脚	洋種	内國種	何毛	何尺	何々	何何年月日	郡町村番地 何何某
全	全	全	全	全	全	全	全

第四號雜形

何号	血統証
生産地名	何毛 何号
何毛	何年月日生
父馬	何号何種
母馬	何号全

印ハ朱肉 厚紙ニテ 縦七寸五 分横四寸 五分	表書之通り無相 違テ証明ス
年月日	年月日
縣郡町村番地	縣郡町村番地
種牡馬所有者何 種牡馬管理人何	種牡馬所有者何 種牡馬管理人何
某印	某印

○縣令第六三號 (明治三十一年十二月七日)
種牡牛取締規則左ノ通相定ム

但シ明治十八年四月本縣布達第三十二號種牡牛馬取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス
種牡牛取締規則

第一條 本則中種牡牛ト稱スルハ總テ種用ニ供スルモノヲ謂フ

第二條 本則ニ定メタル檢査ニ合格シタルモノニアラサレバ種牡牛トシテ使用スルコトヲ得ズ

第三條 前條ノ檢査ハ毎年二月及九月ノ兩度之ヲ行フ
但場所及期日ハ豫メ告示ス

第二号書式 (用紙野半紙)

種牡牛検査願

- 一、種類(内、外國及雜種)
- 一、何用種(乳、肉、耕、用種)
- 一、産地
- 一、号名
- 一、年齢
- 一、体尺
- 一、毛色
- 一、特兆

右牡牛種用ニ致度候間御検査被下度此段奉願候也

年月日

郡市町村番地

何

誰印

縣知事宛

○福岡縣訓令第九號

(明治三十二年九月十二日)

郡役所 市役所
町村役場

明治卅年一月農商務省令第一號獸疫豫防法施行細則第一條ニ依リ市町村長ニ於テ獸疫發生ノ届出ヲ受ケ又ハ警察官ヨリ該通報ヲ受ケタルキハ縣廳ニ報告スルト全時ニ所轄郡役所ヘモ通報スベシ全第二條ニ依リ市町村長ニ於テ獸疫ニ罹リタル獸類ノ全癒斃死若クハ撲殺ノ届出ヲ受ケ又ハ警察官ヨリ該通報ヲ受ケタルキハ獸醫ノ診斷書及左式ノ調査表ヲ添ヘ市長ハ縣廳ニ町村長ハ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ報告スヘシ

(表式)

獸疫調査表

市町村名

備考	獸類		年齢	發病 月日	斃死 月日	撲殺 月日	快復 月日	評價		郡村	所有主氏名
	種類	牝牡						金額	手當 金額		
發病地	病原 病勢 其他										

○福岡縣令第六八號

(明治三十三年八月十四日)

明治三十一年縣令第四十二號畜産補助費下付規程左之通改正シ本令發布ノ日ヨリ施行ス

畜産補助費下附規程

第一條 畜産補助費ハ縣農會ニ於テ畜産ニ關スル規程ヲ設ケ知事ノ認可ヲ經テ施行シ左ノ各項ニ

該當スルトキ下付ス

一、各郡農會ニ於テ規程ヲ遵守シ成績佳良ナルモノ

二、種牡牛馬鑑札ヲ所有セル種畜ニ依リ受孕シタル仔牛馬ニシテ其數一郡農會ニ於テ一ケ年三十頭以上生産健在セルモノ

第二條 補助費割合ハ左ノ如シ

一、仔牛壹頭ニ付金五拾錢以内

一、仔馬壹頭ニ付金七拾錢以内

第三條 補助費ハ其年末日ノ現存數ニ依リ下附ス但他府縣ヨリ購入シタル妊母牛馬ニ依リ生産シタルモノハ算入セス

第四條 補助費ヲ受ケントスルトキハ第一号雛形ニ依リ一ケ年ノ生産仔牛馬數飼畜ノ成績ヲ翌年一月十五日限リ縣廳ニ報告スヘシ

第五條 補助費ハ仔牛馬檢査ノ上其成績ニ依リ下付ス

第六條 縣農會ニ於テハ豫メ仔牛馬ノ生産臺帳ヲ備置キ異同ヲ生シタルトキハ其都度更正スヘシ

第七條 補助金ハ種畜ノ改良若クハ畜産獎勵ノ外使用スルヲ得ス

第一号雛形

種牡牛馬名	母牛馬ノ所在地 並ニ所有者氏名	仔牛馬 牝牡別	毛色	生産年 月日	骨格 否	町村	仔牛馬所有者 住所氏名
何々号	何郡何村 誰	牝	何毛	何年何月 何日生	何々	何町何村	何郡何村 誰

以下做之

計何頭 内譯 牝何頭 牡何頭

備考

一、此表ニ掲クハモノハ報告當時現在生存シ其縣内へ繋留スルモノニ限ル
一、左ノ條項ハ別紙ニ認ムヘシ
飼育生産后ノ健否等全体ニ對スル景況
種牡牛馬所有者又ハ管理人ノ住所氏名
一、本表ハ各郡農會毎ニ區別スヘシ

生産臺帳雛形

種牡牛馬名	種付月日	仔牛馬 牝牡別	毛色	生産 年月日	骨格 良否	町村	仔牛馬所有者 住所氏名	異動事項
何々号	何月何日	牝	何毛	何年何月 何日	良	何町	何郡何村 誰	年月日 何々病ニテ斃死
〃	〃	牡	〃	〃	否	何村	〃	年月日 何郡何町村何某ニ賣渡ス

以下做之

計何頭内 批何頭
 内 斃死何頭
 實却何頭
 備考 一、本臺帳ハ各郡農會毎ニ調製スヘシ

獸醫蹄鉄工

○縣令第百廿號 (明治二十年七月二十六日)

獸醫組合設置手續左ノ通り相定候條來ル十一月ヲ期シ組合ヲ設置ス可シ

獸醫組合設置手續

第一條 獸醫ハ組合ヲ設ケ規約ヲ結ヒ其業務ニ關スル法律規則ヲ遵守シ左ノ目的ヲ達セシメテ計

ル可シ

- 一 獸醫術ヲ研究シ其進歩ヲ計ル事
- 一 獸類傳染病ヲ豫防スル事
- 一 獸類ノ健康ヲ保持増進スル事
- 一 業務上ノ改良ヲ計ル事

第二條 組合區畫ハ縣内全部ヲ以テ大組合トシ便宜數郡ヲ合シテ小組合ト爲スヘシ

第三條 組合區畫ハ大小ニ區別スト雖モ規約ハ必ズ大組合ヲ以テ締結ス可シ

第四條 管内居住ノ開業獸醫ハ必ズ組合ニ加盟スヘシ

但シ管外ノ獸醫ニシテ管内へ出張診察所ヲ設置スル者モ亦本條ニ準ス

第五條 組合獸醫ハ第一條各項實施ノ方法ヲ討議セシメカ爲メ一ヶ年大集會二回小集會四回以上開

會ス可シ

第六條 組合ニハ役員ヲ置キ第五條ニ揚クル會務其他組合諸般ノ事務ヲ辦理セシム可シ

第七條 組合中合規程及議事則其他役員ノ任期人員撰擧法等ハ組合獸醫適宜議定シ縣廳ノ認可ヲ

受ク可シ

第八條 役員及組合獸醫ノ住所氏名ハ縣廳ニ届出ツヘシ

但シ其更迭及住所氏名等變換セシトキモ亦本條ニ準ス

第九條 大小集會ノ開期及其場所等ハ開會一週日前縣廳へ届出ツヘシ

第十條 獸類衛生上ノ利害得失ニ就キ意見アルルハ組合會ノ衆議ヲ經役員ノ名ヲ以テ縣廳又ハ郡

區役所ニ具狀スルヲ得

第十一條 組合ノ費用ハ總テ組合獸醫ノ負擔タル可シ

○縣令第百廿一號 (明治二十年七月二十六日)

獸醫心得左ノ通り相定ム

獸醫心得

第一條 獸醫ハ本業上妨ケアル他ノ職業ヲ兼業スルヲ得ズ

第二條 畜主ノ請求タリト雖モ診察シタル患畜ニアラサレバ猥リニ藥劑ヲ授與ス可カラズ

第三條 獸醫術開業免狀ヲ所持セサル門生若クハ藥局生等ヲシテ診斷施療ヲ專任スルヲ得ズ

第四條 施療ノ患畜斃死シタルルハ甲号書式ニ據リ診斷書ヲ作り其所有者ニ交付スヘシ

但シ別段ノ制規アルモノハ此ノ限りニアラス

第五條 變死ノ屍体ヲ檢案シタルトキハ乙号書式ニ據リ診斷書ヲ作り其所有者又ハ管理者ニ交付ス可シ

第六條 他府縣人ノ所有ニ係ル獸類ト雖モ診斷治療ヲ爲シタルトキハ本縣ノ制規ニ準シテ處置ス

第七條 出張診察所ヲ設置セント欲スル者ハ其設置スベキ郡區町村名番地及出張定日ヲ記載シ郡區役所ヲ經テ届出ツ可シ
但シ甲郡區居住ノ者ニシテ乙郡區所轄内へ設置セントスルトキハ甲郡區役所ニ其旨届置乙郡區役所ヲ經テ届出ツ可シ

第八條 出張診察所ヲ他府縣下へ設置セントスルキハ其設置スベキ府縣へハ前條ノ書面ニ獸醫術開業免狀寫ヲ添フヘシ尤モ他府縣ノ者本管内へ設置スルモ亦同シ

第九條 出張診察所ヲ廢止シタルモ亦其旨届出ス可シ

第十條 管内甲ノ郡區所轄地ヨリ乙ノ郡區所轄地へ轉籍寄留スル者ハ甲ノ郡區役所ニ其旨届置乙ノ郡區役所ヲ經テ届出ツ可シ
但シ一郡區所轄内甲ノ町村ヨリ乙ノ町村へ轉籍寄留スルモノモ郡區役所ヲ經テ届出ツヘシ

第十一條 管内居住ノ者ニシテ他府縣へ轉籍寄留セント欲スル者ハ移住地府縣郡區町村名ヲ記シ郡區役所ヲ經テ速ニ届出ツヘシ

第十二條 他府縣居住ノ者ニシテ本縣下へ轉籍寄留シタルキハ移住地國郡區町村名ヲ記シタル書面ニ獸醫術開業免狀寫ヲ添へ郡區役所ヲ經テ速ニ届出ツヘシ

第十三條 管内獸醫ニシテ他府縣下へ寄留ノ者原籍へ復歸シタルキハ郡區役所ヲ經テ速ニ届出ツ

廿七年縣令第七號ヲ以テ追加

但シ他府縣下獸醫ニシテ本縣内へ寄留ノ者原籍へ復歸スルトキ亦本條ニ同シ

第十四條 管内ノ者他府縣ニ於テ獸醫開業免狀ヲ得歸縣シタルトキハ免狀寫ヲ添へ開業場所ヲ記シ郡區役所ヲ經テ速ニ届出ツ可シ

第十五條 獸醫術開業免狀ヲ遺失毀損若クハ氏名本籍ヲ變換シタル時ハ其旨ヲ詳記シ郡區役所ヲ經テ免狀ノ下付又ハ書換テ速ニ農商務大臣ニ宛出願スヘシ
但シ廢業死亡ノ節ハ直ニ免狀ヲ返納スヘシ

第十六條 業務上ニ關シ官署へ差出ス書面ハ總テ獸醫ノ二字ヲ氏名ノ肩ニ明記ス可シ

第十七條 一ケ年中施療ノ患畜ハ丙号書式ニ據リ毎年二月前年分ヲ製表シ郡區役所ヲ經テ差出ス可シ

第十八條 開業獸醫ハ丁号書式ニ據リ病畜處方箋ヲ作り常ニ藥局ニ備置キ病畜ヲ診察治療スル毎ニ詳細記入ス可シ

甲号書式

診斷書

何縣下何國何郡何町幾番地
何 某 所有

一 獸類 (牛馬羊豚等ノ別ヲ記スヘシ)

一 種類 (内國種外國種雜種ノ別ヲ記スヘシ)

一 牝牡區別 (牝或ハ牡ト記スヘシ)

○告示第六十四號 (明治二十三年八月二十日)

明治廿三年(四月)法律第三十一号蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ假免狀ノ下付ヲ出願セントスル者ハ左ノ書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ市町村長ノ証印ヲ受ケ町村ハ郡役所ヲ經テ當廳ヘ差出スヘシ

願書式(用紙美濃紙二通)
蹄鐵工假免狀下附願

住所(寄留ナレバ本籍ヲ併記スヘシ)

族 籍 氏 名

年 月 日

私儀何郡(市)何町(村)何番地ニ於テ蹄鐵工營業仕度候間蹄鐵工假免狀御下付被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年 月 日 氏 名 印

市長村長 氏 名 印

農商務大臣宛

履歷書式(用紙美濃紙二通)

履 歷 書

住 所

族 籍

氏 名

年 月 日

一何年何月ヨリ何年何月迄何某ニ就キ何學修業

一何年何月ヨリ何年何月迄何學校若クハ何講習所ニ入學何學卒業証若クハ修成証ヲ享受ス

(其他本人修業上ニ關スル重要ノ事項ハ記載スヘシ)

右之通相違無之候也

年 月 日 氏 名 印

○訓第千五十三號 (明治二十三年九月一日)

郡 役 所 市 役 所

明治二十三年(四月)法律第三十一号蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

蹄鐵工假免許出願取扱手續

第一條 蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトハ蹄鐵工乏シキ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ當廳ヘ具申スヘシ

一營業區域

一 區域内ノ廣表
 一同 地勢
 一同 馬匹頭數
 一 近傍同業者トノ距離
 第二條 蹄鐵工假免許期限ヲ經ルモ尙ホ蹄鐵工ニ乏シキ場合ニ於テハ此手續ニヨリ更ニ假免許ノ下付ヲ具申スルヲ得

○告示第六十九号 (明治二十三年九月九日)

明治二十三年(八月)法律第七十六号獸醫免許規則第十四條ニ據リ假免許ノ下付ヲ出願セントスル者ハ左ノ書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ市町村長ノ証印ヲ受ケ町村ハ郡役所ヲ經テ當廳ヘ差出スヘシ
 願書式(用紙美濃紙二通)
 獸醫假免狀下附願

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)
 族 籍
 氏 名
 年 月 生
 私儀何郡(市)何町(村)何番地ニ於テ獸醫開業仕度候間獸醫假免狀御下附被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年 月 日

右

市町村長 氏 名 印
 氏 名 印

農商務大臣宛

履歷書式(用紙美濃紙二通)

履 歷 書

住 所

族 籍

氏 名

年 月 生

一 何年何月ヨリ何年何月迄何某ニ就キ何學修業
 一 何年何月ヨリ何年何月迄何學校若クハ何講習所ニ入學何學卒業証若クハ何講習証ヲ享受ス
 一 何年何月何府(縣)ヨリ牛馬醫若クハ獸醫免狀ヲ受ケ何ヶ年間何地ニ於テ開業
 (其他本人修業上ニ關スル重要ノ事件ハ記載スヘシ)
 右之通相違無之候也

年 月 日

右

何 某 印

○訓第七十六号

(明治二十三年九月九日)

郡役所 市役所

明治二十三年(八月)法律第七十六号獸醫免許規則第十四條ニ據リ假免狀ノ下附ヲ出願スル者アルトキハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

但シ明治二十年一月本縣訓令第二十八号假開業獸醫免許手續ハ廢止ス

右訓令ス

獸醫假免許出願取扱手續

第一條 獸醫假免狀ノ下附ヲ出願スル者アルトキハ獸醫缺乏ノ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ當廳ニ具申スヘシ

一 營業區域

一 區域内廣袤

一 同地勢ノ險夷

一 同牛馬頭數

一 營業年限

一 近傍同業者トノ距離

第二條 獸醫假免許期限ヲ經ルモ尙ホ獸醫ニ乏シキ場合ニ於テハ此手續ニヨリ更ニ假免狀ノ下附ヲ具申スルヲ得

北海道移住民

○訓第七七號

(明治三十一年二月十二日)

郡役所 市役所

本年内務省告示第九號ニ依ル北海道移住民ノ汽車汽船賃割引券取扱方左ノ通り相定ム

第一條 割引券ノ下附ヲ請フ者アルホハ左ノ事項ヲ調査シテ之ヲ下附スヘシ

一 一時ノ出稼ニアラサル者

二 生業ノ目的ヲ以テ移住スル者

三 移住ニ要スル旅費ヲ辨シ得ル者

第二條 告示第三條第二項ニ依リ特ニ乗降地ヲ指定シタル各郡(市)役所ハ乗車五日以前ニ其乗降スヘキ驛名並ニ乗車人員ヲ鐵道作業局運輸部ニ通知スヘシ

但割引券下附後ニ在リテハ之ヲ訂正スヘシ

第三條 割引券ハ豫メ内務省北海道局又ハ縣廳ニ請求シ備ヘ置クヘシ

第四條 割引券ノ受拂ヲ爲シタル郡(市)役所ニ於テハ割引券受拂簿並ニ下附簿ヲ設ケテ左ノ事項ヲ登記スヘシ

受拂簿ニ登記スヘキ事項

受入ノ年月日、員數並送越ノ廳名

下附ノ員數、棄却事由及員數並毎月末現在高

下附簿ニ登記スヘキ事項

券面ノ番號、下附ノ年月日、受領人ノ住所身分、職業、移住ノ目的、氏名、年齡

報告書式

明治二十三年三月三十一日調

船名	船籍氏名主	免狀種類	船長以下職務	族籍氏名	給料月雇入水夫以下職名
何丸	何府縣華士族 平民何誰 若クハ會社名	甲乙種船長若クハ小形船々長免狀 第 号	船長	何府縣士族平民何誰	給料月雇入水夫以下職名 何 圓年月日水夫長何人
		甲乙種一等運轉手免狀 第 号	運轉手	同	同
		甲乙種二等運轉手免狀 第 号	全	同	同
		甲乙種一等機關手免狀 第 号	機關手	同	同
		甲乙種二等機關手若クハ小形船機關手免狀 第 号	全	同	同
					火夫同
					油差同
					水夫同
					舵夫同

備考

以下右ノ振谷ニ倣ヒ各船毎乗組人員ヲ列記シ且外國人ハ氏名欄内ニ其國名ヲ記入スベシ
一船長其他ノ海員ニシテ病氣其他ノ事故ニ依リ一時廢業又ハ休業ニ係ルモノヲ除クノ外乗組船ノ修繕碇泊中ヲ問ハス船主ノ雇入中ニ屬スルモノ總テ無洩報告スベシ

○縣達第三十六号 (明治二十四年九月二十二日)

郡役所 市役所

明治十五年(十二月)甲第百三十五号達勸業通信假規則ヲ廢シ農工商業報告例左ノ通り相定ム

農工商業報告例

- 第一條 本例ハ農工商三業ノ實勢現象ヲ報告スル順序概目ヲ定メタルモノトス
- 第二條 報告ヲ分ツテ臨時報、通常報、週年報ノ三種トス
- 第三條 臨時報ハ天變地妖事急遽ニ發シ利害條チニ生シタルヲ迅速報告スルモノ、通報ハ事急ヲ要セサル時々ノ實況ヲ報告スルモノ、週年報ハ前年ニ於ケル農工商全般ノ狀勢ヲ概括シテ年始報告スルモノト云フ
- 第四條 凡ソ報告ハ電信ヲ以テスルモノヲ除キ他ノ文書ト混同セサル爲メ農工商「臨時」「通常」「週年」報ト標記シ別ニ添簡ヲ要セス其紙未又ハ冊尾ニ年月日ヲ記シ郡市長署名捺印スベシ
- 第五條 報告ハ務メテ簡易明瞭ヲ主トシ專ラ事實相ノ誤リナキヲ注意シ而シテ表式等單ニ數字ノミ用ユルトキハ基本位ノ傍ニ其文字(假令ハ圓斤石反ノ類)ヲ記載スベシ
- 第六條 臨時報及通常報ノ概目左ノ如シ

臨時報

- 一 氣候節ヲ失ヒ冷熱俄カニ變シ或ハ風雨水旱等ノ異常ニヨリ農作ヲ害シ農業ヲ妨クルノ類
- 一 作物ノ虫害又ハ家畜家禽ノ傳染病等異常ノ徵候アル類
- 一 天變地妖或ハ時勢ノ急變等ニ依リ大ニ商業ニ影響シ物價高低ノ景況

通常報

- 一 農作物播種濟ノ期、全上生育ノ景況、全上成熟ノ景況、全上收穫ノ步通り、全上試作又ハ改良法實施ノ景況
- 一 天氣風雨暖寒ノ順、不順等ノ概況
- 一 概物虫害及家畜、家禽傳染病等ノ蔓延及消滅ノ景況
- 一 肥料、農具ノ改良、効驗及培養ノ良法、試驗ノ成績
- 一 田圃ノ區畫改正、溝渠ノ修築及開墾等農業上ノ便益ヲ開キシ類
- 一 牧場ノ新設及家畜、家禽ノ蕃殖景況
- 一 蚕兒ノ發生、生育及成繭豐凶ノ成績
- 一 製糸及蚕糸業組合ノ景況
- 一 養蚕、製紙、製茶生徒養成及其成績
- 一 山林、樹木栽培ノ實況及其方法
- 一 農談會及品評會ノ景況
- 一 農業上各種組合ノ景況
- 一 漁具、漁法、製造ノ改良發明等ノ成績

- 一 漁場ノ新發明及既往ニ見サル水族植物種類及其場所
- 一 漁船ノ難破、漁業者漂没等ノ景況
- 一 漁業組合水産談話會及水産上ノ會社等ノ景況
- 一 採礦、製鑄、製紙、製蠟、製油、精米、織物其他重ナル會社、組合營業ノ景況
- 一 工業上ノ盛衰、興廢ニ係ル原因
- 一 工業上ノ組合及職工組合ヲ設ケ彼我ノ便ヲ圖ル景況
- 一 工業上便利ノ器條ヲ發明改良シタル試驗ノ成績
- 一 博多織、久留米紵、柳川織及其他重ナル織物ノ景況
- 一 各地商業ノ盛衰、物價高低ノ景況
- 一 米、麥、石炭、蠟、茶、紙、織物、生糸其他本縣ノ重ナル製産物ノ輸出ニ關スル商況
- 一 他府縣ヨリ輸入スル物貨ノ商況
- 一 各港津ノ物價集散及船舶出入ノ景況
- 一 商業會議所各商工會商法談話會等ノ景況
- 一 專賣特許品販賣ノ景況
- 一 臨時開設ニ係ル市場ノ狀況
- 一 銀行及貸金會社營業ノ繁閑
- 一 金融ノ景況

第七條 凡ソ臨時報ヲ發スルトキハ農作物ニ在リテハ其被害ノ步通り(速ニ確定シ難キ場合ハ大凡ノ見込步通り)商業ニアリテハ物價高低ノ差額ヲ記シ報告スヘシ

(様式)

明治何年何月中支米一石平均價

百四十四

地	名	上	米	中	米	下	米

右報告候也

年月日

知事宛

郡市長印

○訓第二二六号

(明治二十九年四月十五日)

郡役所 市役所

當廳ニ於テ認可ヲ與タル農工商各種組合ニ於ケル違約者(漁業組合ニ在テハ侵漁者トモ)處分ニ係ル事項ハ處分後五日以内又組合員數並ニ其増減數ハ每年年末ニ當廳ヘ報告スヘシ

○福岡縣訓令第一七号

(明治三十二年九月二十九日)

郡役所 市役所
町村役場

農工商統計材料調査規程左ノ通り改ム

但明治二十六年(七月)縣達第二十二号全二十七年(六月)縣達第十七号全三十年(四月)縣達第十四号全三十二年(五月)縣達第十三号ハ自今廢止ス

農工商統計材料調査規程

第一條 農工商統計材料ハ郡市町村長ニ於テ調査スルモノトス

但全業組合ヲ設置セル地ノ郡市町村長ハ便宜組合ヲシテ其種類ニ就キ調査ヲ爲サシムルヲ得

第二條 前條ノ調査ハ各郡市町村ニ於テ適宜ノ區畫ニ依リ可成若干ノ調査委員ヲ設ケ其事務ヲ補助セシムヘシ

但委員ヲ設ケタルキハ其住地職業姓名ヲ報告スヘシ

第三條 調査委員ハ其地方ニ於テ相當ノ地位名望ヲ有シ實業ノ狀況ニ通シ且統計調査ニ適スルモノヲ撰ブヘシ

第四條 調査委員ノ事務ハ左ノ如シ

一 統計材料蒐集ニ補助ヲ與フル

一 蒐集セシ統計ノ適實ナルヤ否ノ協議ニ與ル

一 統計調査ニ關シ意見アルキハ其筋ニ之ヲ開申スル

第五條 全表悉ク調査ノ事實ナキトキハ其趣ヲ報告シ若一表中或ル事項ノ事實ナキトキハ其欄ニ「」線ヲ付スヘシ

第六條 表中數字ノ句點ハ一位ニ「。」ニ付スルモ以下小數ヲ記セザルモ「」千位及百万位ニ「、」ヲ其右側下ニ施シ一位ノ右側ニ其數量ノ名稱ヲ記入スヘシ

農務

農工商通信報告

百四十五

第七條 各表トモ備考トシテ欄外ニ其年ノ狀況及前年ニ對シ増減ノ理由ヲ記スヘシ
 第八條 各表題ノ下何年トアルハ一周曆年間ノ調何年度トアルハ會計年度間ノ調何年何月日トアルハ該日ノ現數ヲ記スヘシ
 第九條 各表一號以下ノ様式ニ依リ其市ニ係ルモノハ市長ニ於テ調製シ其町村ニ係ルモノハ部長
 之ヲ取纏メ製表ノ上左ノ期限ニ進達スヘシ
 但用紙ハ美濃紙ヲ用ヒ每表別紙ニ調製スヘシ

番 号	表 題	町村役場ヨリ郡役所 へ進達期限	郡役所ヨリ縣廳へ 進達期限
第一号	米	每年其年十一月限	每年其年十二月限
第二号	麥	其年六月限	其年七月限
第三号	食用農産物	其年十二月限	翌年一月限
第四号	特用農産物	其年十二月限	翌年一月限
第五号	桑畑及茶畑反別	其年七月十五日限	其年七月三十日限
第六号	春蠶	其年七月十五日限	其年七月三十日限
第七号	夏秋蠶	其年九月末日限	其年十月末日限
第八号	蠶糸類及真綿蚕種	其年一月十五日限	其年一月末日限
第九号	茶	其年七月末日限	其年八月末日限
第十号	砂糖	其年一月限	其年二月限
第十一号	牧場	其年一月限	其年二月限

番 号	表 題	全 體	全 體
第十二号	牛馬ノ出產死亡	全 翌年一月限	全 翌年二月限
第十三号	牛馬	全 翌年一月限	全 翌年二月限
第十四号	羊 豚	全 翌年一月限	全 翌年二月限
第十五号	屠 殺	全 翌年一月限	全 翌年二月限
第十六号	森林植栽	全 翌年二月限	全 翌年三月限
第十七号	森林伐採ノ一	全 翌年二月限	全 翌年三月限
第十八号	森林伐採ノ二	全 翌年二月限	全 翌年三月限
第十九号	農林雜産物	全 翌年二月限	全 翌年三月限
第二十号	石炭消費高	全 翌年一月限	全 翌年二月限
第二十一号	職工其他賃錢	全 翌年一月限	全 翌年二月限
第二十二号	織 物	全 翌年一月限	全 翌年二月限
第二十三号	疊表 莫産及莞廷	全 翌年七月限	全 翌年八月限
第二十四号	陶磁器	全 翌年二月限	全 翌年三月限
第二十五号	工産物雜類	全 翌年二月限	全 翌年三月限
第二十六号	綿絲紡績ノ一	全 翌年二月限	全 翌年三月限
第二十七号	綿絲紡績ノ二	全 翌年二月限	全 翌年三月限
第二十八号	工場ノ一	全 翌年一月限	全 翌年二月限
第二十九号	工場ノ二	全 翌年一月限	全 翌年二月限
第三十号	會 社	全 翌年一月限	全 翌年二月限

第三十一号	諸市場	全	翌年二月限	全	翌年三月限
第三十二号	都邑物價	全	翌年二月限	全	翌年三月限
第三十三号	商業會議所	全	翌年一月限	全	翌年二月限
第三十四号	諸取引所	全	翌年一月限	全	翌年二月限
第三十五号	管外輸出米ノ一	全	翌年三月限	全	翌年四月限
第三十六号	管外輸出米ノ二	全	翌年三月限	全	翌年四月限
第三十七号	何々電燈會社ノ一	全	翌年四月十日限	全	翌年四月二十日限
第三十八号	何々電燈會社ノ二	全	翌年四月十日限	全	翌年四月二十日限
第三十九号	何々生命保險會社ノ一	全	翌年四月十五日限	全	翌年四月三十日限
第四十号	全	全	全	全	全
第四十一号	全	全	全	全	全
第四十二号	全	全	全	全	全
第四十三号	全	全	全	全	全
第四十四号	全	全	全	全	全
第四十五号	全	全	全	全	全
第四十六号	全	全	全	全	全
第四十七号	何々鐵道會社ノ一	全	翌年四月限	全	翌年五月限
第四十八号	全	全	全	全	全
第四十九号	全	全	全	全	全

第五十号	銀行ノ一	全	翌年二月限	全	翌年三月限
第五十一号	全	全	全	全	全
第五十二号	全	全	全	全	全
第五十三号	全	全	全	全	全
第五十四号	全	全	全	全	全
第五十五号	全	全	全	全	全
第五十六号	漁船	全	翌年一月限	全	翌年二月限
第五十七号	難破船	全	全	全	全
第五十八号	漁獲物	全	全	全	全
第五十九号	水産製造物	全	全	全	全
第六十号	鹽	全	全	全	全
第六十一号	水産養殖	全	全	全	全
第六十二号	遠洋漁業	全	翌年七月限	全	翌年八月限

一 實綿、葉藍、葉煙草ハ乾燥シタルモノ大麻、楮皮ハ莖ヲ去リ且ッ乾燥シタルモノヲ以テ數フヘシ

何	何	甘	楮	楮	七	蘭	葉	葉
々	々	蔗	皮	實	島		藍	煙草
					反			
					斤			
					斤			

一 楮及楮ハ各所ニ点在栽培スルモノハ株數ニ依リ近傍畑地ニ比準シテ見積反別ヲ記スベシ

第五号 桑畑及茶畑反別 明治何年六月末日現在 何郡市町村

種	類	段	別	見積反別	計
茶	畑				
桑	畑		反		
				反	
					反

一 見積反別之欄ニハ桑畑茶畑以外ニ散在セル桑茶畑ノ株數ヲ近傍桑茶畑ニ比準シ反別ヲ見積リテ記入スベシ

第六号 春 蚕 明治何年 何郡市町村

飼養戸數	
掃立枚數	

生糸		製絲戶數	計	製造所	計	數	量	價	格	一貫目、一枚、又一蛾ニ付價格
座繰	器械									
<p style="text-align: center;">第八号 蚕絲類及眞綿蚕種</p> <p style="text-align: center;">明治何年 何郡市町村</p>										
<p style="text-align: center;">一備考ハ春蚕ニ全シ</p>										
計										

蚕種製造高	普通製	蚕種製造戶數	眞綿	屑糸及屑物	玉絲	熨斗絲	計
	框製						
<p>一製造戶數ハ其年七月末日現在又蚕種製造戶數ハ其年六月末日現在ヲ記入スヘシ（指定ノ月日ニ季節ニ達セサル片ハ盛期ノ數ヲ記入スヘシ）</p>							
枚		圓		錢			

一 各種製造數ハ其年中ニ製造セシモノヲ掲クヘシ
一 備考トシテ其年製糸ノ概況(繭解舒ノ良否品質ノ如何等)ヲ記載スヘシ

第九号 茶 明治何年 何郡市町村

製造戸數	數	量	價	格	一貫目ニ付價格
玉露		貫		圓	錢
煎茶(黒口釜熬ヲ含ム)					
紅茶					
烏龍					
番茶					

一 製造戸數ハ其年五月末日現在ヲ記入スヘシ
一 焙爐ヲ裝置シテ多量ニ製造スルモノハ自家用ト雖モ調査スヘシ

第十号 砂糖 明治何年 何郡市町村

製造戸數	種別數	量	價	格	一貫目ニ付價格
榨車數		貫		圓	錢
白下					
白砂糖					
赤砂糖					

楸 <small>クヌキ</small>	櫻	栗	檜 <small>ヒノ</small>	樟	松	杉	羅漢柏 <small>ハハバ</small>	扁柏 <small>ヒノキ</small>
								反
								本
								圓

計	何々	何々

一本表ハ國有林及御料林、部分林ヲ除ク以下之ニ同シ
 一何々トアル欄ニハ其地方ノ重要ナル樹木ヲ記スヘシ次表モ亦之ニ同シ
 一補植ハ面積ノ欄ヲ天然下種ハ數量ノ欄ヲ省キ其他ハ本表ニ準シ別表トナスベシ

第十七号		森林伐採ノ一		明治何年		何郡市町村	
羅漢柏 <small>ハハバ</small>	扁柏 <small>ヒノキ</small>	用材木數	一尺未満	一尺以上二尺以上	二尺以上三尺以上	三尺以上四尺以上	四尺以上五尺以上
			五尺以上六尺以上	價格上	薪炭材		
			價格				
			圓	圓			

何々々	何々々	何々々

一何々トアル欄ニハ其地方ニ於テ重ナル農業林業上ノ雜産物ヲ記スヘシ

第二十号

石炭消費高

明治何年

何郡市町村

工場用	鐵道用	船舶用	數	量	價	格
				斤		圓
						錢
						一万斤ニ付平均價格

製造用

計

一本表ハ和斤則チ百六十クナテ以テ調査スルモノトス
 一船舶用及鐵道用ハ其所有者及本社所在地ノ郡市ニ於テ調査スルモノトス
 一工場用ハ蒸氣器械若クハ電氣器械ヲ使用スルモノ及瓦斯又ハコーク製造所ニ消費スルモノニ限ル
 一諸官衙ニ屬スル船舶工場等ノ分ハ之ヲ除クモノトス

第二十一號

職工其他賃錢

明治何年

何郡市町村

職業ノ種類	年月給	日給	別給
	上	中	下
農作年雇	三	九	月
	上	中	下
農作日雇	三	九	月
	上	中	下
養蠶			

洋服仕立職	木挽職	大工職	左官職	瓦葺職	家根職	煉瓦師職	指物師職	經師職	學師職	建築具職	石工職	植木職	煙草刻職	菓子製造職

蠶糸織 <small>女</small>	製茶男工	漁夫	坑夫	日雇人夫	下男	下女	陶器轆轤師	漆器塗師	鋤職	袋物職	染物職	和服仕立職

桶	船	油	版	活	綿	鍛	鑄	漆	紙	車	馬	靴	下
	大	絞	摺	植	打	冶	物	搔	漉	製	具		駄
職	工	職	職	職	職	職	職	職	工	職	師	職	職

<p>酒造 稼人</p> <p>醬油 造稼人</p>		<p>一 本表農作年雇ヨリ下女ニ至ル十一項ノ賃錢ハ各郡市ニ於テ之ヲ調ヘ其他ハ福岡市久留米市門司市ノ三ヶ所ニ於テ調査スルモノトス</p> <p>一 賃錢ハ三月及九月ニ於テ見通シテ記スルモノトス但シ勞力者ノ種類ト地方ノ慣例トニ依リ日給月給又ハ年給ニテ記載シ其區別ハ各項ノ下ニ注記スヘシ</p> <p>一 養蚕糸繰製茶酒造稼人ノ如キ季節ヲ限リ營業スルモノハ季節間ノ見通ニテ一日又ハ一ヶ月ノ賃錢ヲ掲クベシ</p>	<p>第二十二号</p> <p>織物</p>	<p>明治何年</p> <p>何郡市町村</p>
<p>機</p> <p>器</p> <p>械</p> <p>機</p>	<p>機</p> <p>業</p> <p>戶</p> <p>數</p>		<p>台</p> <p>戶</p>	

物 織								
女帶地類	男帶地類	袴地類	海氣類 海氣、綾 海氣等	透綾類	縞類	平絹類	紬太織類	絲織類 糸織、綾 糸織等
	本							

絹				工 織			織
斜子類	羽三重類 羽二重、綾、縞 羽二重、紋等	縮緬類 白縮緬、御 召縮緬等	紋織類 縹、珍、緞子、 金剛等	計	女	男	手織機
				數			
			反	量			
			圓	價			
			錢	格			
				一反又一本ニ付平均價格			
						人	

麻	計		物					織
	本	段	其	女	男	袴	蚊	綿
生	本	段	其	女	男	袴	蚊	綿
麻	數	數	他	帶	帶	地	帳	(フナチル)
布				地	地	類	類	
			反		本			

價	額	合	計	織		
				其	蚊	上
額	合	計	計	他	帳	布
計	計	計	計	地	類	類

一 機業戸數(機織ヲ業トスル工場、機業ヲ營業トスル獨立營業者)及機數ハ其年十二月末日ノ現在ヲ記入スヘシ
 一 器械トハ水力、流力、瓦斯力等ニヨリテ運轉スル機械構機ヲ云フ此以外ハ總テ(ハツタン機ノ如キモノ)手織機ト心得ヘシ
 一 其他ノ織物ノ欄ニハ反物ノ形体ヲナシテ前掲ノ部類ニ入テサル織物ヲ記入スベシ

一帯地ハ子供帯ハ男女トモ二本ヲ以テ一本ニ數ヘ女帯地半巾モノハ二本ヲ以テ一本トス
 一匹ハ反ニ換算シ其他卷、本、枚、碼等ヲ以テ稱呼スルモノハ數量價格トモ各別ニ記載スベシ
 一本業ニ關スル一ケ年ノ概況及將來ノ模様ヲ略記スベシ

第二十二号

疊表其産及莞蔴

〔自每年七月至翌年六月〕

一ケ年分

何郡市町村

疊表	製造戸數		疊表其産 兼業 莞蔴	莞蔴業	疊表及其産類
	備後	琉球			
	枚				
	圓				一枚又ハ一本ノ價格
					錢

輸出向莞蔴	莫蔴			計	其他
	計	其他	並莫蔴		
本					

一製造戸數ハ其年十二月末日現在ヲ記入スヘシ
 一莞蔴一本トハ四十ヤードヲ云フ

第二十四号

陶磁器

明治何年

何郡市町村